YAMAHA

TOOLS for 01X Plug-in Effect
インストールガイド

ユーザー登録カードに必要事項をご記入の上、CBXインフォメーションセンターにお送りください。ユーザー登録手続を完了された方に限り、ユーザーサポートサービスを行なわせていただきます。ユーザー登録カードとシリアル番号予備シールは、CD-ROMと同じ袋に入っています。

ご注意

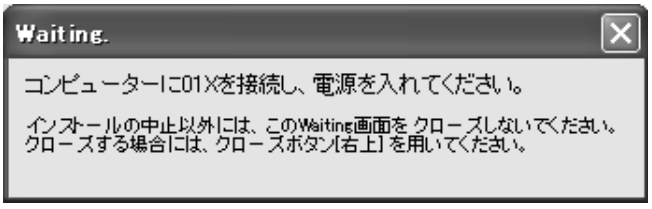
CD-ROMには、コピーできないようプロテクトがかけられています。お客様がこのCD-ROM/ソフトウェアの複製を試みた結果生じた損害については、ヤマハ株式会社は一切責任を負いかねますので、ご了承ください。

このソフトウェアのCD-ROMは、オーディオ用ではありません。一般のオーディオ用CDプレーヤーでは絶対に使用しないでください。

- このソフトウェアおよびインストールガイドの著作権はすべてヤマハ株式会社が所有します。
- 巻末にこのソフトウェアのソフトウェア使用許諾契約が記載されています。ソフトウェアをインストールする前に、必ずこのライセンス契約をお読みください。CD-ROMを開封すると、この契約に同意したことになります。
- このソフトウェアおよびインストールガイドの一部または全部を無断で複製、改変することはできません。
- このソフトウェアおよびインストールガイドを運用した結果およびその影響については、一切責任を負いかねますのでご了承ください。
- 各ソフトウェアおよびmLAN使用時の01Xの動作環境については、下記URLに最新情報が掲載されています。
  http://www.yamaha.co.jp/product/syndtm/
- mLANドライバーなどのソフトウェアは、改良のため予告なしにバージョンアップすることがあります。
  最新ソフトウェアは、下記URLからダウンロードできます。
  http://www.yamaha.co.jp/product/syndtm/dl/
- 市販の音楽/サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。
- OMS™および OMS™ は、Opcode Systems, Inc.の商標です。
- Adobe、AdobeのロゴAcrobatおよびAcrobatのロゴは、Adobe Systems Incorporatedの商標です。
- 「MIDI」は社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- 「ソフトシンセサイザー」はヤマハ株式会社の商標です。
- その他、このインストールガイドに掲載されている会社名、製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。
- アプリケーションのバージョンアップなどに伴うシステムソフトウェアおよび一部の機能や仕様の変更については、別紙または別冊で対応させていただきます。

Windowsユーザーの方へ

- **インストールの途中でコンピューターの画面に以下のメッセージが表示されるまで、01Xの電源を入れないでください。**



- **インストールの終了後、お使いの環境(DAW/オーディオシーケンサー)に合わせてオーディオドライバーの種類を選択してください。**
  詳しくはmLAN Driver Setup(10ページ)のModeをご参照ください。

目次

CD-ROMについて 2
データの対応OS(オペレーティングシステム) 2
CD-ROMの活用手順 2
Windowsユーザーの方へ 3
CD-ROMの内容 3
01X/ソフトウェアの動作環境 5
ソフトウェアのインストール 6
MIDIポートの設定 (アプリケーションを単独で起動する場合) 15
Macintoshユーザーの方へ 17
CD-ROMの内容 17
01X/ソフトウェアの動作環境 18
ソフトウェアのインストール 18
デモソングの再生/リモートコントロールの設定 24
SQ01 24
Cubase SX/SL 27
Logic 27
Digital Performer 28
SONAR(英語版のみ) 28
メッセージ一覧 29
トラブルシューティング 29
付属アプリケーションソフトウェアのユーザーサポートサービス .. 31

CD-ROMについて

データの対応OS(オペレーティングシステム)

このCD-ROMのデータは、WindowsとMacintoshに対応しています。WindowsとMacintoshではデータの内容やインストール方法が異なります。
以下、各OSに対応した説明をお読みください。

→Windows　→3～16ページ、24ページ以降をお読みください。
→Macintosh　→17ページからお読みください。

CD-ROMの活用手順

CD-ROMを開封する前に、巻末の「ソフトウェアのご使用条件」をお読みください。

1 ユーザー登録を行ないます。..... 31ページ

2 お使いのコンピューターで同梱ソフトウェアが動作することを確認します。..... Windows 5ページ、Macintosh 18ページ

3 ドライバーをインストールします。..... WIndows 6ページ、Macintosh 18ページ

4 ソフトウェア(Studio Managerなど)をインストールします。..... Windows 3、13ページ、Macintosh 17、22ページ

5 ソフトウェアを起動します。

これ以降の操作については、各ソフトウェアの取扱説明書(オンラインヘルプ/PDFマニュアル)をご参照ください。

NOTE

・PDFマニュアルをご覧になるには、コンピューターにAcrobat Readerがインストールされている必要があります(Windows 6ページ、Macintosh 18ページ)。

こんなときは

・サンプリングレート(ワードクロック)を変更したい ..... 9、20ページ
・mLANの送受信チャンネル数を設定したい ..... 9、20ページ
・mLANドライバーの設定を変更したい 10ページ
・レイテンシーを設定したい 11ページ
・SQ01のオンラインマニュアルを使いたい 16ページ
・対応しているDAWを確認したい 24ページ
・ドライバーがインストールできない 29ページ
・ドライバーの削除、再インストールがしたい ..... 6、12、21ページ
・mLANによる通信ができない 29ページ

Windowsユーザーの方へ

CD-ROMの内容

Windows用のソフトウェアとソングデータが2枚のCD-ROMに納められています。TOOLS for 01Xからインストールをはじめます。

●TOOLS for 01X

フォルダー名	ソフト名	説明
Acroread_	Acrobat Reader*1*2	アプリケーションソフトのPDFマニュアルをコンピューター上で閲覧できるようにします。 ・コンピューターの[F1]ボタンを押すと、オンラインヘルプを起動できます。
StudioManager_	Studio Manager*1*3	01Xのミキサー (INTERNALモード)のさまざまな設定をコンピューターで編集/管理するソフトウェアです。SQ01のプラグインとして使用した場合は、SQ01のソングデータと一緒にStudio Managerの設定を保存できます。プラグインで使用するか、単独で使用するかにかかわらず、01Xとのデータの送受信にはmLAN MIDI Port 4を使用します(Studio Manager PDF取扱説明書参照)。 ・[Help]メニューから[Manual]を選択すると、PDFマニュアルを表示できます。 ・「StudioManager_」フォルダーの「Setup.exe」をダブルクリックし、画面の指示に従ってインストールしてください。
Sq01_	SQ01 V2*1	本格的な音楽制作をお楽しみいただけるよう、オーディオミキサー機能を大幅に強化したシーケンスソフトSQ01のバージョンアップ版です。プラグインソフトのホストアプリケーションとしても機能します。ASIO(Steinberg Audio Stream In/Out Interface)ドライバー (ASIO mLAN)で使用します。01Xとのリモートデータの送受信にはmLAN MIDI Port 1を使用します(24ページ)。 ・各ウィンドウの[ヘルプ]メニューから[オンラインマニュアル]または[キーワード]を選択すると、オンラインマニュアル(16ページ)を起動できます。 ・インストール手順は13ページをご参照ください。
AudioMixer_	Audio Mixer*1 (SQ01 V2プラグイン)	オーディオのミキサーソフトウェアです。SQ01のプラグインとして使用します(単独では使えません)。ASIOドライバー (ASIO mLAN)で使用します。SQ01をインストールするときに続けてインストールできます。
TWE_	Wave Editor TWE*1	お持ちのコンピューターで波形データ(.WAVまたは.AIFF)の編集ができる波形エディターです。mLAN Driver Setup(10ページ)の「ASIO/WDM」でModeを「WDM (2CH)+ASIO」に設定して使用します。 ・[スタート]→[すべてのプログラム]→[YAMAHA TWE]→[Wave Editor TWEマニュアル]でPDFマニュアルを表示できます。 ・SQ01をインストールするときに続けてインストールできます。TWEだけをインストールしたい場合は、「TWE_」フォルダーの「Setup.exe」をダブルクリックし、画面の指示に従ってインストールしてください。
MltPartEditor_	Multi Part Editor for MOTIF-RACK*1	ヤマハTONE GENERATOR MOTIF-RACKをマルチ音源として使用する場合に、パートパラメーターやエフェクトなどさまざまなパラメーターをコンピューター上で編集できるエディターです。01XによるMOTIF-RACKのリモートコントロールを可能にします。単独で使用する場合は、01Xとのデータの送受信にはmLAN MIDI Port 5を使用します。 ・コンピューターの[F1]ボタンを押すと、PDFマニュアルを起動できます。 ・「MltPartEditor_」フォルダーの「Setup.exe」をダブルクリックし、画面の指示に従ってインストールしてください。
mLAN_	mLAN Driver mLAN Tools	01XとコンピューターをmLAN接続して使用するのに必要なソフトウェアです。**01Xの電源を切った状態でインストールを開始します**(6ページ)。
NIdemo_	B4 (Demo)*2 Pro-53 (Demo)*2	Native Instruments社のVSTプラグインソフトウェア音源のデモ版です。 ・「NIdemo_」フォルダーの中で、インストールしたいプラグインソフト名のついた実行ファイル(***Setup.exe)をダブルクリックし、画面の指示に従ってインストールしてください。
DemoSong	デモソング ・SQ01 V2 ・Cubase SX/SL*2 ・SONAR2 (英語版用)*2	01Xをリモートコントローラーとして使用する際の各DAW(デジタルオーディオワークステーション)のデモソング(曲)データです(24ページ)。付属のプラグインエフェクトを使用したソングですので、下記ソフトエフェクトの効果を確認することもできます(SONARを除く)。

●Plug-in Effect

・VST規格に対応したプラグインソフトです。
・[スタート]→[(すべての)プログラム]→[YAMAHA VST Plugins]→各ソフトウェア→[オンラインマニュアル]でPDFマニュアルを表示できます。
・VSTプラグインエフェクトのインストール手順は14ページをご参照ください。

フォルダー名	ソフト名	内容
VST_	01X Channel Module*1	01Xの各チャンネルに搭載されているEQ(イコライザー)とダイナミクス効果をコンピューターのCPUパワーを使って実現するソフトウェアです。Studio Managerを使って、01Xと設定データをやりとりできます。
	Pitch Fix*1	ボーカルのピッチ(音の高さ)編集を行なうためのソフトウェアです。ボーカルのピッチを修正するだけでなく、声質を変更することもできます。Pitch Fixをホストアプリケーションからの MIDI情報でコントロールすることも可能です。ホストアプリケーション上での設定方法についても、Pitch Fix取扱説明書PDFをご参照ください。
	Vocal Rack*1	ボーカルレコーディング用のマルチエフェクターです。ハイパスフィルター、コンプレッサー、3バンドイコライザーなどの様々なエフェクトが用意されています。
	Final Master*1	マスタリング用のマルチエフェクターです。コンプレッサーとリミッター、ソフトクリップ機能が用意されており、3バンドの帯域分割処理が可能です。

*1 これらのソフトウェアには電子マニュアルが付いています。
*2 このソフトウェアはヤマハではサポートしません。
*3 SONAR(英語版のみ対応)と使用するときは、スタンドアローンとして起動してください。

■ Open Plug-in Technologyについて

Studio Manager for 01XやMulti Part Editor for MOTIF-RACKは単独のアプリケーションソフトウェアですが、WindowsではOpen Plug-in Technology(オープンプラグインテクノロジー)対応のソフトウェアのプラグインソフトとして使うこともできます。

Open Plug-in Technology(以下OPT)は、シーケンサーなどの音楽用ソフトウェアからMIDI機器をコントロールするためのソフトウェアプラグインフォーマットです。たとえば、シンセサイザー、プラグインボードの音色エディターや、ミキサーをコントロールするエディターなどを、別々に起動させるのではなく、OPTに対応したアプリケーションの中で動作させることができます。アプリケーションごとにMIDIドライバーの設定などをする必要がなくなり、音楽制作をより快適でシームレスに行なう環境を実現します。

● ホストアプリケーションのOPT対応レベル

OPT対応のホストアプリケーションは、以下の3つのレベルに分けられます。

レベル1(PANELS)のホストアプリケーションでは、プラグインソフトウェアの基本的な機能をサポートしており、代表的な例としては、コンピューター上でプラグインソフト(エディターなど)のパネルを使って音色エディットができます。

レベル2(PROCESSORS)のホストアプリケーションでは、プラグインソフトウェアからMIDIデータを受信するなど、レベル1よりも一歩進んだエディットができます。プラグインソフトウェアの多くの機能をサポートしていますが、一部対応していない機能(イベント挿入など)があります。

レベル3(VIEWS)のホストアプリケーションでは、プラグインソフトウェアが持っているすべての機能が動作します。ヤマハのシーケンスソフトSOLやSQ01はOPTレベル3(VIEWS)に対応しています。

Studio Manager for 01X動作表

Studio Manager for 01Xは、以下のように動作します。

ホストアプリケーション対応レベル	Studio Manager for 01Xの動作	
	動作可否	機能制限の内容
VIEWS(レベル3)	動作する	なし
PROCESSORS(レベル2)	動作する	なし
PANELS(レベル1)	動作する	オフライン編集のみ可能

Studio Manager for 01Xはレベル2(PROCESSORS)、レベル3(VIEWS)のホストアプリケーションではすべての機能が動作します。
レベル1(PANELS)のホストアプリケーションではオフライン編集のみ可能です。

NOTE

・ホストアプリケーション側に対応する機能がない場合は、期待どおりに動作しない場合があります。
対応レベルは、OPTのロゴで確認できます(ホストアプリケーションのバージョン情報などに表示されます)。

Multi Part Editorの動作については、エディターに付属のPDFマニュアルをご参照ください。

01X/ソフトウェアの動作環境

01XをmLANで使用したり、付属のソフトウェアをお使いいただくには、以下のコンピューター環境が必要です。

NOTE

- お使いのOSによっては、下記の仕様以上の条件を満たす必要があります。
- 下記以外の付属ソフトウェアは、動作環境が異なる場合があります。詳しくは、各ソフトウェアのオンラインマニュアルなどをご覧ください。
- 各社DAWの動作環境については、それぞれの取扱説明書をご参照ください。

□01X(mLAN Driver/mLAN Toolsの動作環境を含む)

この動作環境は、mLAN Driver/mLAN Tools、オーディオシーケンサー、プラグインエフェクトを含んだ総合的なものです。

OS : Windows XP Professional/XP Home Edition

コンピューター : Intel Pentium/Celeronファミリーのプロセッサーを搭載したコンピューター
S400 (転送スピード400Mbps)のIEEE 1394 (FireWire)端子またはi.LINK端子を搭載したもの (*1)

・推奨動作環境 (*2)

コンピューター : Intel Pentium 4　2.2GHz以上
メモリー : 512MB以上
ハードディスク : 500MB以上の空き容量、高速なハードディスク

・最低動作環境 (*3)

コンピューター : Intel Pentium 1.2GHzまたはIntel Celeron 1.7GHz以上
メモリー : 384MB以上
ハードディスク : 500MB以上の空き容量、高速なハードディスク

*1 IEEE 1394 (FireWire) 端子またはi.LINK端子を搭載したコンピュータが必要です。搭載していない場合は、PCMCIAまたはPCIカードなどを別途ご用意ください。
詳細な動作環境や推奨のPCMCIA, PCIカードについては
http://www.yamaha.co.jp/product/syndtm
をご覧ください。

*2 上記推奨動作環境は標準的なシーケンスソフトウェアにて、下記のオーディオ/MIDIを録音/再生しながら、同梱のソフトエフェクトなどを使用した場合です。お使いのシーケンスソフトウェアにより異なる場合があります。
Fs=44.1kHz/24bit
Audio Driver　24 In/18 Outアクティブ
MIDI Driver　4 In/4 Out (リモートコントロール/オートメーションを含む)
Audio x 12トラック再生
Audio x 2トラック録音
MIDI x 16トラック再生
MIDI Remote Control/Automation
Send Plug-in Soft Effect 2系統
Insert Plug-in Soft Effect 10系統
Plug-in Soft Synthesizer 3系統
Latency 5msec以下

*3 上記最低動作環境は標準的なシーケンスソフトウェアにて、下記のオーディオ/MIDIを再生しながら、同梱のソフトエフェクトなどを使用した場合です。お使いのシーケンスソフトウェアにより異なる場合があります。
Fs=44.1kHz/16bit
Audio Driver　8 In/2 Outアクティブ
MIDI Driver　1 In/1 Out (リモートコントロール/オートメーション)
Audio x 12トラック再生
MIDI Remote Control/Automation
Send Plug-in Soft Effect 2系統
Insert Plug-in Soft Effect 6系統
Plug-in Soft Synthesizer なし
Latency 50msec程度

NOTE

- 使用できるPCI/PCMCIAインターフェースカードの数は2つまでです。コンピューターに内蔵のIEEE 1394インターフェースを使用している場合は、IEEE 1394 PCI/PCMCIAインターフェースカードは1枚のみ使用できます。
- ノートPCをご使用の場合、ノートPCの制約により、内蔵IEEE 1394が使用できないことがあります。このようなときは、PCMCIAカードをご使用ください。

□SQ01 V2/Audio Mixer

OS : Windows XP Professional/XP Home Edition/2000/Me/98

コンピューター : 500MHz以上のIntel Pentium/Celeronファミリーのプロセッサーを搭載したコンピューター

NOTE

- Windows XPをご使用の場合は750MHz以上が必要です。
- 付属プラグインエフェクト使用時は1GHz以上が必要です。

メモリー : 256MB以上
ハードディスク : 300MB以上の空きスペース
ディスプレイ : 1024×768ドット以上

□Studio Manager

OS : Windows XP Professional/XP Home Edition/2000/Me/98SE

コンピューター : 433MHz以上のIntel Pentium/Celeronファミリーのプロセッサーを搭載したコンピューター

メモリー : 128MB以上
ハードディスク : 20MB以上の空きスペース
ディスプレイ : 1024×768ドット、256色以上
(1280×1024ドット High Color 16ビット推奨)

NOTE

- ディスプレイ解像度設定が1024×768の場合、［スタート→設定→タスクバーとスタートメニューのプロパティ］でタスクバーの「自動的に隠す」をオンにしてください。

□TWE V2.4.4

OS : Windows XP/NT/2000/Me/98/95

コンピューター : 166MHz以上のIntel Pentium/Celeronファミリーのプロセッサーを搭載したコンピューター

メモリー : 24MB以上
ハードディスク : 平均アクセスタイム30ms以下
ディスプレイ : 800×600ドット以上　256色以上

□Multi Part Editor for MOTIF-RACK

OS : Windows 98/Me/2000/XP Home Edition/XP Professional

コンピューター : 166MHz以上のIntel Pentium/Celeronファミリーのプロセッサーを搭載したコンピューター

メモリー : 32MB以上
ハードディスク : 32MB以上の空きスペース
ディスプレイ : 1024×768ドット以上

□Plug-in Effect

OS : Windows XP Professional/XP Home Edition/2000/Me/98SE/98

mLANを使用するときは、コンピューターの起動後に、タスクバーのmLANアイコン(mLAN Manager)を右クリックして、mLANをONにしてください(10ページ)。

ソフトウェアのインストール

ここで説明のないソフトウェアのインストールについては、「CD-ROMの内容」(3ページ)をご参照ください。

アンインストール(アプリケーションの削除)

次の方法でインストールしたソフトウェアを削除することができます。
[スタート](→[設定])→[コントロールパネル]→[プログラムの追加と削除]→[インストールと削除]で、削除したい項目を選択し、[追加と削除]をクリックします。
ダイアログが表示されますので、画面の指示に従って削除を実行してください。

NOTE

- ご使用のOSによりメニュー名やボタン名などが異なる場合があります。
- mLANソフトウェアのアンインストールには以下の2項目の削除が必要です。1→2の順に削除してください。
  1. Install mLAN for 01X
  2. mLAN Tools 2.0
- プラグインエフェクトのアンインストールについては15ページをご参照ください。

お使いのCD-ROMドライブのドライブ名(D:、E:、Q:など)をあらかじめご確認ください。ドライブ名は「マイコンピューター」の中のCD-ROMアイコンの下に表示されています。(CD-ROMドライブのルートディレクトリーはそれぞれD:¥、E:¥、Q:¥などになります。)

Acrobat Readerのインストール

各アプリケーションに付属のPDFマニュアルをコンピューター上で見るために、あらかじめこのソフトウェアをインストールする必要があります。

NOTE

- CD-ROMに搭載されているバージョン以前のAcrobat Readerがすでにコンピューターにインストールされている場合は、このバージョンをインストールする前に、前のバージョンのものをアンインストールしてください。

1 「Acroread_」フォルダーをダブルクリックします。
4種類の言語のフォルダーが表示されます。

2 「Japanese」フォルダーをダブルクリックします。
「AcroReader**_JPN.exe」(**にはバージョンを示す数字が入ります)という実行ファイルが表示されます。

NOTE

- .exeファイル名は、変更される場合があります。

3 「AcroReader**_JPN.exe」をダブルクリックします。
Acrobat Readerのセットアップダイアログが表示されます。

4 画面の指示に従ってインストールを実行します。

インストール後、コンピューター上(デフォルトではProgram Files)にAcrobatのフォルダーが追加されます。
操作については[ヘルプ]メニューの[Readerのヘルプ]をご参照ください。

mLAN Driver/mLAN Toolsのインストール

mLAN TOOLSは、mLANの各種の設定をコンピューター上で行なうためのソフトウェアです。
mLAN Driverは、DAW(デジタルオーディオワークステーション)と01Xの間でオーディオデータやリモートコントロール情報をはじめとするMIDI信号をmLANケーブルを通じてやりとりするためのソフトウェアです。
次の手順でインストールします。

NOTE

- エラーメッセージが表示されたときは29ページをご参照ください。

インストール前の準備

1 01XのMIDI IN/OUTに接続されているMIDI機器の接続ケーブルをすべて外しておきます。

2 01XをコンピューターのIEEE 1394(FireWIre/i.LINK)端子にハブを使わず直接つなぎ、01X以外のIEEE 1394機器は、コンピューターから外します。

3 01Xの電源が切れているのを確認します。

4 コンピューターを起動して、administrator権限のあるアカウントでログインします。

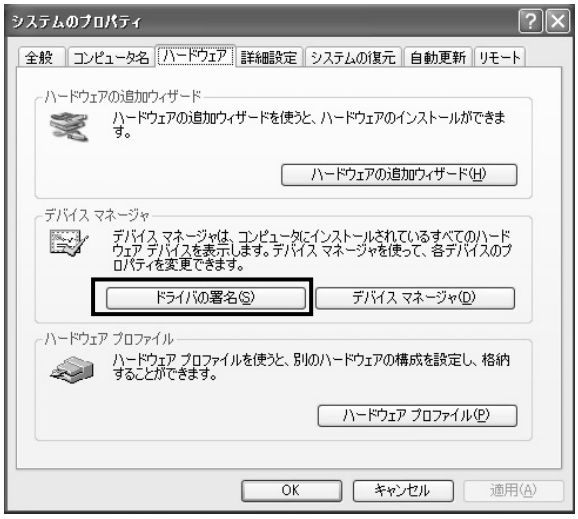
mLANを使用する際は、コンピューターの省電力(サスペンド/スリープ/スタンバイ/休止)モードや省電力モードに入る設定は使用しないでください。

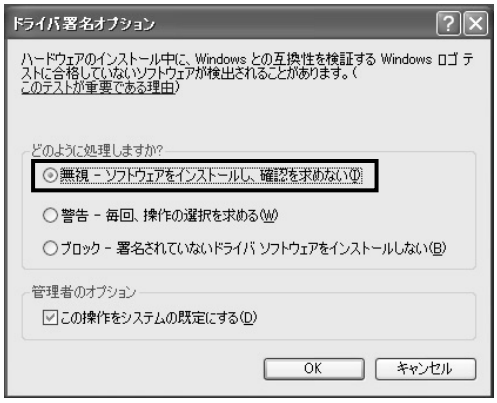
NOTE

- データレート規格がS200(お使いの機器のリアパネルまたは取扱説明書の「仕様」参照)のmLAN機器をお使いの場合は、あらかじめ古いmLAN Toolsをアンインストールしておいてください(ヤマハのmLAN製品をご使用の場合は、左記の「アンインストール」をご参照ください。その他のmLAN製品をご使用の場合は、それぞれの機器に付属の取扱説明書をご参照ください。)。

5 [スタート]→[コントロールパネル]をクリックします。コントロールパネルが下のような表示のときは、画面左上の「クラシック表示に切り替える」をクリックします。すべてのコントロールパネルとアイコンが表示されます。

6 [システム]→[ハードウェア]→[ドライバーの署名]→[ドライバー署名オプション]で「無視ーソフトウェアをインストールし、確認を求めない(I)」の左側にあるラジオボタンにチェックを入れて、[OK]をクリックします。





NOTE

- インストールが終了したら、ここでの設定を元に戻してください。

7 ([システム]→[ハードウェア]→)[デバイスマネージャ]の「1394バスホストコントローラ」に「！」や「×」マークがついていないことを確認します。「！」や「×」マークがついている場合は、mLAN(IEEE 1394/i.LINK)が使用できない設定になっています。詳細については、お使いのコンピューターの取扱説明書をご参照ください。

8 [OK]をクリックしてシステムのプロパティを閉じてから、画面右上の「X」をクリックしてコントロールパネルを閉じます。

9 アプリケーションを終了し、使っていないウィンドウをすべて閉じます。

10 付属のCD-ROMをCD-ROMドライブに挿入します。

mLANソフトウェア用インストーラーの起動

インストーラーは、以下の2つのソフトのインストールを行ないます。

- mLAN Tools 2.0
- Install mLAN for 01X

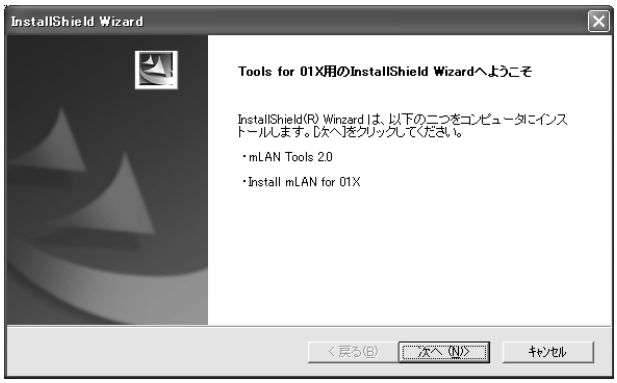
NOTE

- インストールの中止には、必ずキャンセルボタンやクローズボタンを使用してください。[CTR]+[ALT]+[DEL]を使用して中止したり、インストールの途中で電源をオフにしたりすると、アンインストールが正常にできなくなる原因となります。

11 「mLAN_」フォルダーをダブルクリックします。
「Setup.exe」などのファイルが表示されます。

12 「Setup.exe」をダブルクリックします。

13 いくつか確認のメッセージが表示されますので、問題なければ[OK]をクリックします。インストールの準備が終わると、「ようこそ」という画面が表示されます。



mLAN Tools 2.0のインストール

14 [次へ]をクリックします。mLAN TOOLSのインストール開始画面が表示されます。

15 [次へ]をクリックします。「インストール先の選択」画面が表示されますので、mLAN TOOLSをインストールするドライブとフォルダー名を決めます。自動的にインストール先が選択されています。インストールするドライブとフォルダー名を変えたい場合は、[参照]ボタンをクリックしてインストール先のフォルダーを選択します(ドライブ:￥フォルダー名)。インストール先を確認/選択したら[次へ]をクリックします。

NOTE

- 通常はインストール先を変更する必要はありません。

16 ドライブとフォルダー名(ディレクトリー)を確認して、[次へ]をクリックします。インストールが開始されます。

NOTE

- インストールを中断するには、[キャンセル]をクリックしてください。
- インストール中、「ロゴテストに合格していません」というメッセージが表示された場合は、「続行」をクリックします。インストールを中止する必要はありません(この先の手順でも同様です)。メッセージが表示されない場合はそのまま次の手順に進みます。

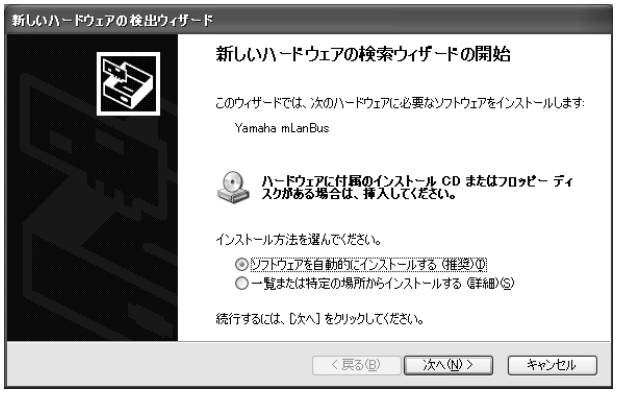
17 インストールが完了すると、インストール完了のメッセージが表示されます。
[完了]をクリックします。

NOTE

- Waiting画面については、9ページをご参照ください。

mLAN Bus Driver(mLAN Stream Driver)のインストール

18 「新しいハードウェアの検出ウィザード」が自動的に表示されます。



「ソフトウェアを自動的にインストールする(推奨)(I)」の左側にあるラジオボタンにチェックを入れて、[次へ]をクリックします。インストールが始まります。

19 インストールが完了すると、インストール完了のメッセージが表示されます。
[完了]をクリックします。

Install mLAN for 01X(mLANソフトウェア)のインストール

インストールの準備が終わると、「ようこそ」という画面が表示されます。[次へ]をクリックします。

20 「インストール先の選択」画面で、インストールするドライブとフォルダー名を決めます。自動的にインストール先が選択されます。インストールするドライブとフォルダー名を変えたい場合は、[参照]ボタンをクリックしてインストール先のフォルダーを選択してください(ドライブ: ¥フォルダー名)。

NOTE

- 通常はインストール先を変更する必要はありません。

21 ドライブとフォルダー名(ディレクトリー)を確認して、[次へ]をクリックします。
インストールが開始されます。

NOTE

- インストールを中断するには、[キャンセル]をクリックしてください。

22 01Xの電源を入れるよう求めるメッセージが表示されますので、01Xの電源を入れます。

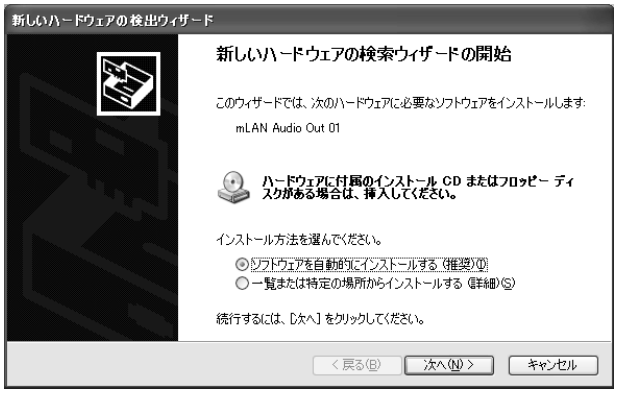
23 インストールが完了すると、インストール完了のメッセージが表示されます。
[完了]をクリックします。

NOTE

- Waiting画面については、9ページをご参照ください。

mLAN Driverの使用に必要なポートの登録

24 「新しいハードウェアの検出ウィザードの開始」が自動的に表示されます。



「ソフトウェアを自動的にインストールする(推奨)(I)」の左側にあるラジオボタンにチェックを入れて、[次へ]をクリックします。インストールが始まります。

NOTE

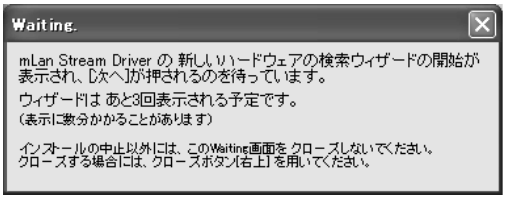
- 「新しいハードウェアの検出ウィザードの開始」画面の表示には、多少時間がかることがあります。

Waiting画面

インストールの最中に01Xの接続などが検出されると、Windows XPによってインストーラーに並行して、「新しいハードウェアの検出ウィザードの開始」が自動的に表示されます。このことをインフォメーションするのがWaiting画面です。

セットアップタイプの画面で選択したオーディオドライバーの種類によって、Waiting画面が表示される回数は異なります。

例)



NOTE

- 「新しいハードウェアの検出ウィザードの開始」画面で誤操作した場合や(例：間違ってキャンセルを押してしまい、インストールを抜けてしまった場合など)何らかの理由でウィザードが正しく終了しなかった場合など以外は、Waiting画面を閉じないでください。ウィザード画面が正常に終了すると、Waiting画面は自動的に閉じます。
- Waitng画面を[CTRL]+[ALT]+[DEL]の操作で閉じないでください。Tools for 01Xのインストールが、異常終了してしまいます。

25 インストールが完了すると、インストール完了のメッセージが表示されます。
[完了]をクリックします。

26 Waiting画面が消えるまで、**24**-**25**の手順を繰り返します。

NOTE

- Waiting画面は「新しいハードウェアの検出ウィザードの開始」画面に隠れていることがあります。その場合は、「新しいハードウェアの検出ウィザードの開始」画面を移動して、画面が重ならないようにしてください。

mLAN AUTO W.CLKの設定(01X)

27 mLAN Driverがインストールされると、mLAN Auto Connectorが起動しますので01XのmLAN AUTO W.CLK(オートワードクロック)を次の手順でENABLE(有効)にして、mLAN AUTO Connectorからの設定を受信できる状態にします。01Xでの設定は、mLAN Auto Connectorでの接続後に行なうこともできます。

<u>01Xの設定</u>

27-1 01Xの[UTILITY]ボタンを押してUTILITYモードに入ります。

27-2 W.CLK (チャンネルノブ3)を押して、mLAN AUTO W.CLK画面を開きます。

```
UTILITY   mLAN AUTO W.CLK          [INT : 48 kHz] 1/2
ENABLE/DISABLE
 1   2   3   4   5   6   7   8
```

27-3 ENABLE(チャンネルノブ1)を押します。

27-4 確認のメッセージ(ENABLE SURE?)が表示されますので、チャンネルノブ8を押して実行します。

NOTE

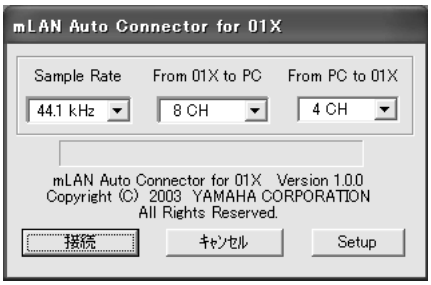
- すでにENABLE(有効)になっているときは、確認のメッセージは表示されません。次の手順にお進みください。

NOTE

- 01Xのユーティリティの設定は、システムバックアップ(01X取扱説明書参照)をしないかぎり、電源を切ると失われます。ここでの設定を次回、電源を入れたときにも有効にするには、[SHIFT]+[UTILITY]でシステムバックアップを実行してください。

mLAN Auto Connectorによる設定

28 mLANを使用する環境に応じてmLAN Auto Connectorの設定を選択します。



Sample Rate ..... サンプリング周波数(ワードクロックの周波数)を選択します

From 01X to PC .. 01XからコンピューターへのmLANオーディオ送信チャンネル数を選択します

From PC to 01X .. コンピューターから01XへのmLANオーディオ送信チャンネル数を選択します

NOTE

- mLAN Auto Connectorを使ってmLAN接続する際に、ノイズが発生することがあります。mLAN Auto Connectorで「接続」操作を行なうときは、出力を絞ってください。

NOTE

- mLAN Driver Setup (10ページ)のModeでASIO+WDMを選択したとき「From PC to 01X」は、"4CH+2CH"のように表示されます。前の数字(4CH)はASIOで扱うチャンネル数で、この4チャンネルのうちのうしろの2チャンネルは、01Xのモニター入力17/18チャンネル(96kHz/88.2kHz時は9/10チャンネル)に接続されます。後の数字はWDMで扱うチャンネル数で、01Xの15/16チャンネル (96kHz/88.2kHz時は7/8チャンネル)に入力されます。"2CH+2CH"を選択した場合は、01Xのモニター入力には接続しません。
- ASIOのみ、またはWDMのみのときは"6CH"のように表示され、うしろの2チャンネルがモニター入力に接続されます。

・01Xへのモニターに入力した音を聞くには、[MONITOR A/B]ボタンを使用します(01X取扱説明書96ページ参照)。

NOTE

・01XのLAYERが17-24(mLAN)のときに、96kHzに設定すると、LAYER[1-8]に移動し、チャンネル1が選ばれます。
・インストール後、ここでの設定を変更したい場合は、タスクバーのmLANアイコンを右クリックして、mLAN Auto Connectorを起動します。

01X mLAN Control Panelの設定

mLAN Auto Connectorの画面で[Setup]をクリックすると、01X mLAN Control Panelが開きます。
01Xのワードクロックがmlan上でスレーブになっていて、そのワードクロックが変動する場合、元の設定から新しい設定に緩やかに移るか、速く移るかを設定できます。

Slow.... ワードクロックが緩やかに移りかわります。通常はSlowで使用します
Fast.... ワードクロックが速やかに移りかわります(ジッターノイズが比較的多くなります)

29 [接続]をクリックします。正しく接続されると、mLAN Auto Connectorが終了し、01Xがスレーブの状態でmLANによる通信が開始されます。

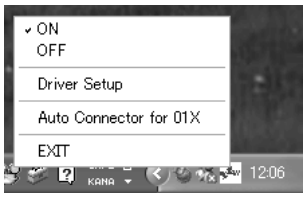
NOTE

・接続がうまくいかなかったときは、タスクバーのmLANアイコンを右クリックしてmLAN Auto Connectorを再起動し、もう一度[接続]をクリックしてください。
・コンピューターを再起動する必要はありません。

インストール後の確認

タスクバー

mLAN Manager (mLANアイコン)が追加されます。右クリックでメニューが表示されます。



ON..... mLANを使用できる状態にします(mLAN Startを起動します)。
OFF..... mLANを終了します(mLAN Stopを起動します)。mLANを使用しないときに、コンピューターの負荷を軽くできます。
Driver Setup..... mLAN Driver Setup(右記参照)を起動します。
Auto Connector for 01X. mLAN Auto Connectorを起動します。インストール後に設定を変更する場合に起動します。
EXIT..... mLAN ON/OFFの状態はそのままで、タスクバーからmLANのアイコンを削除します。再度表示させるには、[スタート]→[(すべての)プログラム]→[スタートアップ]から[mLAN Manager]を選択します。

NOTE

・mLAN Driver Setup(右記参照)を使って、mLANによるデータの送受信が正常に行なわれているかを確認することができます。

mLANをオンにしたとき

mLANの起動中にメッセージが表示されます。

キャンセルする場合は、mLAN Startの画面で[キャンセル]をクリックします。mLANを使用する場合は、タスクバーのmLANアイコン(mLAN Manager)を右クリックして、[ON]を選択します。

デバイスマネージャー

1 [スタート] メニューから [コントロールパネル] を選択します。

2 [システム] アイコンをダブルクリックして、「システムのプロパティ」を表示させます。

3 [ハードウェア] のタブを選び [デバイスマネージャ] をクリックします。

4 「サウンド、ビデオ、およびゲームのコントローラ」の左側の [+] マークをクリックし、「YAMAHA 01X-mLAN」「YAMAHA mLanBus」表示があることを確認します。

インストール後の設定変更

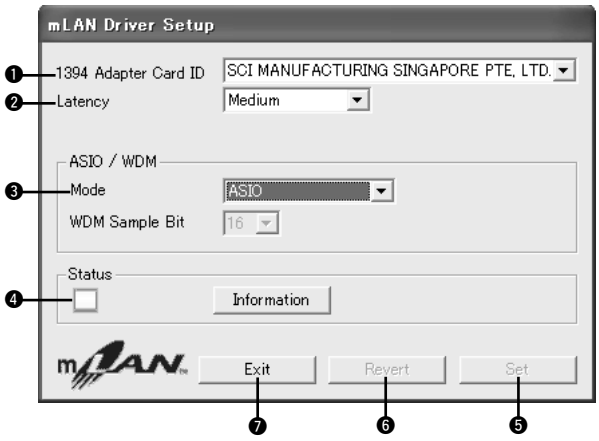
インストール後のmLANに関する設定変更は、mLAN Driver Setup画面で行ないます。

mLAN Driver Setup (タスクバーのmLANアイコンを右クリック→Driver Setup)

mLAN通信の設定や送受信の確認をするための画面です。設定を変更する場合は、mLANを使用しているアプリケーション(DAWなど)を終了してください。

NOTE

・ワードクロック(サンプルレート)、使用するチャンネル数を変更するには、タスクバーのmLANアイコンを右クリックしてAuto Connectorを起動します。



❶ 1394 Adapter Card ID
コンピューターに装着されているIEEE 1394(FireWire/i.LINK)インターフェースカードのIDが表示されます。カードが複数装着されている場合には、設定の対象となるカードを選択します。mLANドライバーが認識していないカードは表示されません。

NOTE

・お使いのカードによっては、正しいベンダー (メーカー)名が表示されないことがあります。

❷ Latency

レイテンシー (命令を実行してから、実際に処理されるまでの遅延時間)を設定します。使用する環境によって選択してください。

mLAN使用時のレイテンシー

お使いのパソコンの性能(CPUの速度やシステムメモリーのサイズ）により、オーディオシーケンサーなどのアプリケーションを使用する際に、ノイズが発生するなど、オーディオデータを 正しく録音/再生できない場合があります。このような場合、レイテンシー (遅延時間)を調節することで、問題を解決できます。

・レイテンシーの値が小さい.....遅延時間が短く、リアルタイムプレイに適しています
・レイテンシーの値が大きい.....遅延時間が長くなる分、プラグインエフェクトや扱うオーディオチャンネル数を多くできます

下記は、mLAN ASIOドライバーを使用時のレイテンシーの値の求めかたです。

●mLANの送信レイテンシー (オーディオシーケンサーの再生方向)

mLANドライバーのオーディオレイテンシーは、以下の2つの合計値となります。
(1) Driver Setupで選択したLatencyによって決まる基本となるLatency値
(2) オーディオシーケンサーなどのアプリケーション側での設定値（例：ASIO mLANコントロールパネルのPreferred Buffer Size）

オーディオのレイテンシー (msec.) (例. 最小値の場合) (2003年10月現在)

	送信 (再生/コンピューターから01X)			受信 (録音/01Xからコンピューター)
Driver Setupでの設定 (基本設定)	基本となるLatencyの値 (Driver Setupでの設定値)	アプリケーションでの設定値 (mLAN ASIOドライバーの Preferred Buffer Size)	レイテンシーの合計	アプリケーションでの設定値の2倍 (mLAN ASIOドライバーのPreferred Buffer Size)
Very Low	2	1	3	2 (1×2)
Low	4	2	6	4 (2×2)
Medium	8	2	10	4 (2×2)
High	16	4	20	8 (4×2)
Very High	80	10	90	20 (10×2)

MIDIのレイテンシー (msec.)

Driver Setupでの設定 (基本設定)	送信 (コンピューターから01X)	受信 (01Xからコンピューター)
Very Low	2	1
Low	2	1
Medium	2	1
High	4	2
Very High	8	4

NOTE

mLAN ASIOドライバーの場合、必要に応じて、アプリケーションのドライバー設定（お使いのオーディオシーケンサーによってメニュー構成が異なります）内でASIO mLANコントロールパネルを開いて、Prefered Buffer Sizeを設定します。
Prefered Buffer Sizeを変更した場合、この表のASIOドライバーのLatencyが最小値から変化し、基本となるLatency値にその値を加えた値がレイテンシーの合計値となります。

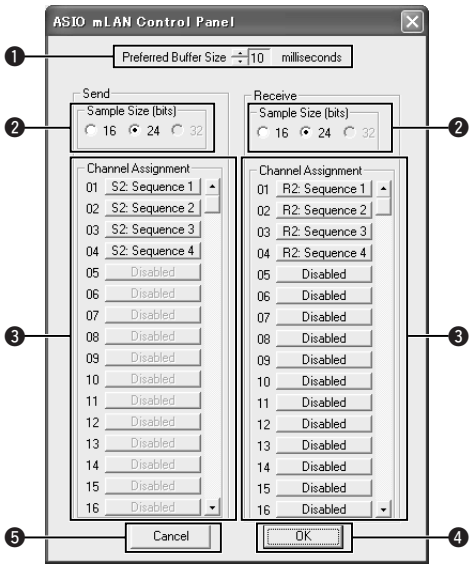
・ mLAN WDMドライバーの場合も同様に、必要に応じて、アプリケーションのドライバー設定内でこの表のASIOドライバーのLatency値に相当するWDMドライバーのLatency値を調整します。
・ mLAN ASIOドライバーのPreferred Buffer Sizeの初期設定は、最小値になっています。

●mLANの受信レイテンシー (オーディオシーケンサーの録音方向)

mLANドライバーのオーディオレイテンシーは、オーディオシーケンサーなどのアプリケーション側での設定のみで決まります。(例：ASIO mLAN Control PanelのPrefered Buffer Sizeの値の2倍が全体的なレイテンシーとなります)

● ASIO mLANコントロールパネル

ASIO mLAN Contorl Panelを起動すると、以下のダイアログボックス(ASIO mLAN Control Panel)が表示されます。



❶ Preferred Buffer Size

ASIO mLANドライバー内部で使用するバッファーのサイズの値を指定します。

❷ Sample Size

オーディオデータの送信/受信のビット数をそれぞれ選択します。

❸ Channel Assignment

使用中のコンピューターが送受信しているmLANオーディオシーケンスのうち、どれをどのオーディオチャンネルとして使用するかを、「Send」および「Receive」ボックス内のポップアップメニューで指定します。01XなどのmLAN機器では、アプリケーション(Auto Connectorなど)で自動的に設定されていますので、変更しないでください。設定を変更してしまった場合は、上から順にSequence番号が若くなるように設定しなおしてください。画面はmLANの送受信チャンネル数をmLAN Auto Connectorでそれぞれ4チャンネルに設定したときの例です。

NOTE

・ WDM+ASIOでお使いの場合は、いったんmLAN Driver SetupでMODEをASIOに設定する必要があります。上から順にSequence番号が若くなるように設定したあと、あらためてmLAN Driver SetupでMODEをWDM+ASIOの設定に戻してください。
・ サンプリングレートは、mLAN Driver Setupの設定に従います。

❹ OK

設定した内容を有効にしてダイアログボックスを閉じます。

❺ Cancel

設定の変更をせずにダイアログボックスを閉じます。

❸ Mode

使用する環境にあわせて、ドライバーを選択します。WDMを使用する設定を選択した場合は、サンプルビットを切替できます。

- **ASIO**: Cubaseなど、すべてのmLANオーディオチャンネルでASIOを使う設定です。コンピューターからの送信でうしろの2チャンネルは、01Xのモニター入力(mLAN Stereo In)に接続されます。
- **WDM(2CH)+ASIO**：SQ01 V2/SOL2など、mLANオーディオ15/16 (96kHz/88.2kHz時は7/8)チャンネル(コンピューターからの送信チャンネル)をWDM(TWE用)、残りのチャンネルをASIO(Audio Mixer用)で使う設定です。コンピューターへの受信は、すべてASIOとなります。コンピューターからの送信でASIOのうしろ2チャンネルは、01Xのモニター入力(mLAN Stereo In)に接続されます。
- **WDM**: SONARなど、すべてのmLANオーディオチャンネルでWDMを使う設定です。コンピューターからの送信でうしろの2チャンネルは、01Xのモニター入力(mLAN Stereo In)に接続されます。

NOTE

- 01XはSONARの日本語版には対応していません(24ページ)。
- WDM+ASIO、WDMを選択した場合は、「サウンドとオーディオデバイスのプロパティ」(13ページ)の設定をご確認ください。

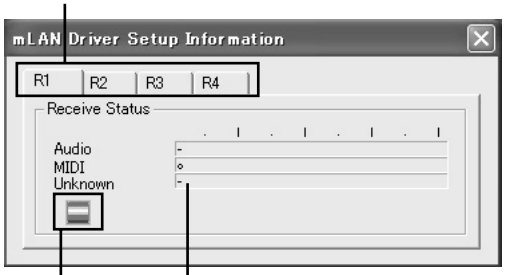
❹ Status

01Xからコンピューターへの送信データ(MIDI/オーディオ)の状態を表示します。エラー発生時には、メッセージが表示されます。

青.....正常に受信している状態です。
黄.....MIDIかオーディオの一方だけ受信している状態です。
赤.....エラーが起きています。
グレー..... 受信していません。

Information画面

01Xからコンピューターへの受信の状態をMIDIとオーディオに分けて表示します。



❺ Set

設定した内容を、実際に有効にするためのボタンです。この画面で変更した設定は、[Set] をクリックするまでは有効になりません。

❻ Revert

設定した内容を、最後に「Set」をクリックしたときの状態に戻すためのボタンです。一度「Set」をクリックすると、このボタンでそれ以前の状態に戻すことはできません。

❼ Exit

mLAN Driver Setup画面を閉じます。

インストールを途中で終了した場合について

インストールを途中で終了した場合、ソフトウェアが不完全な状態で、インストールされている可能性があります。正しくソフトウェアをインストールするには、以下の作業を行なってください。

1 プログラムの追加と削除(6ページ)を起動し、リストに「Install mLAN for 01X」、「mLAN Tools 2.0」がないかを確認します。

2 「Install mLAN for 01X」、「mLAN Tools 2.0」の順に削除します。

3 手順**12**のインストーラーを再起動します(7ページ)。

mLAN Auto Connector/Driver Setupの設定が変更できない場合、Install mLAN for 01X/mLAN Tools 2.0のアンインストールができない場合の対処

mLAN Auto Connector、Driver Setupでの設定変更時やInstall mLAN for 01X/mLAN Toolsのアンインストール時に以下のようなメッセージが表示されることがあります。

例)

●mLANドライバーをアプリケーション(オーディオシーケンサーなど)で使用中の場合

mLAN Auto Connector、Driver Setupでの設定変更、またはInstall mLAN for 01X/mLAN Tools 2.0のアンインストールができません。アプリケーションを終了してから設定変更、アンインストールを行なってください。

●WDMをご使用で以下の両方の条件を満たす場合

アプリケーションを起動していない状態でもmLAN Auto Connector, Driver Setupでの設定変更、またはInstall mLAN for 01X/mLAN Tools 2.0のアンインストールができないことがあります。

- Driver SetupのModeを「WDM」または「WDM+ASIO」に設定している。
- WindowsのシステムのオーディオデバイスでmLAN WDMドライバー(“mLAN Audio Out/In 01”)を選択している。

上記の場合には、以下の手順でいったんmLAN WDMドライバーの選択をはずしてから、mLAN Auto Connector、Driver Setupでの設定変更、またはInstall mLAN for 01X/mLAN Tools 2.0のアンインストールを行なってください。

1 [スタート]→[コントロールパネル]→「サウンドとオーディオデバイス」→[音声]の[音声再生]と[音声録音]で“mLAN Audio Out/In 01”以外を選択する。

2 [スタート]→[コントロールパネル]→「サウンドとオーディオデバイス」→[オーディオ]の[音の再生]および[録音]で“mLAN Audio Out/ In 01”以外を選択する。

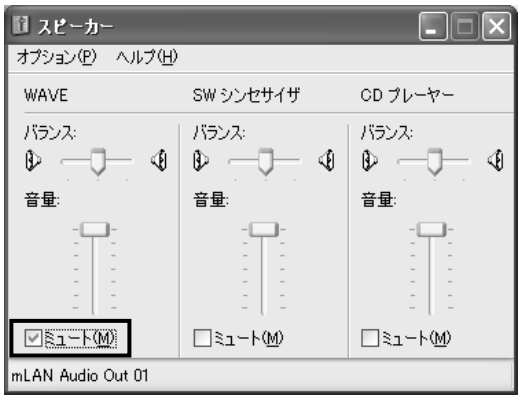
サウンドとオーディオデバイスのプロパティ

WDMを使用する設定でmLAN Driverをインストールすると、コンピューターのシステム音(警告音など)がmLANオーディオチャンネルに出力されます。システム音をmLANオーディオチャンネルに出力しないようにするには、以下の設定をしてください。

NOTE

- 以下の設定をすると、WAVE音がコンピューターで鳴らなくなります。

1 [スタート]→[コントロールパネル]→「サウンドとオーディオデバイス」→[音声]の[音声再生]から[音量]をクリックします。スピーカー画面が表示されます。



2 WAVEの欄Vのミュートのチェックボックスにチェックを入れます。

SQ01/Audio Mixer/TWEのインストール

ここでは、SQ01のインストール方法について説明します。SQ01のインストールが終わると、続けてAudio MixerとTWEのインストールを行なうことができます。

NOTE

- お使いのコンピューターに、SQ01(旧バージョン)やTWEがすでにインストールされている場合は、あらかじめアンインストール(6ページ)しておいてください。

1 「SQ01_」フォルダーをダブルクリックします。
「Setup.exe」などのファイルが表示されます。

2 「Setup.exe」をダブルクリックします。
インストールの準備が始まります。旧バージョンのアンインストールを促すダイアログが表示されますので、旧バージョンがインストールされていない(すでにアンインストールされている)場合は、[はい]をクリックしてインストールを続行します。

NOTE

- まだ旧バージョンがアンインストールされていない場合は、[いいえ]をクリックしてインストールを中止し、先に旧バージョンをアンインストール(6ページ)してください。

3 DirectX 8.0以上がインストールされていない場合は、DirectXのインストールを促すダイアログが表示されます。[はい]をクリックして、DirectXをインストールします。DirectXをインストール後、コンピューターを再起動して、もう一度手順**1**からインストールを始めてください。

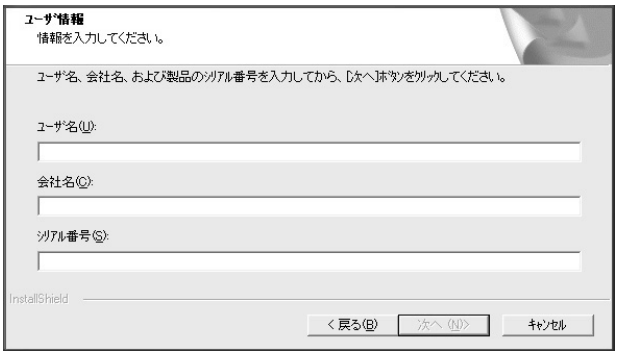
4 インストールの準備が終わると、「ようこそ」という画面が表示されます。

5 [次へ]をクリックします。ユーザー登録のお知らせが表示されるので、よくお読みください。

6 [次へ]をクリックします。ユーザー情報の画面が開きますので、お名前、会社名、シリアル番号を入力してください。

NOTE

- シリアル番号は、ユーザー登録カードに記載されておりますので、そちらをご参照ください。
- ここでの入力はインストールのためのものです。製品のユーザー登録は、別途行なってください(31ページ)。



7 [次へ]をクリックします。登録内容の確認画面が開きますので、正しいことを確認して[はい]をクリックします。

NOTE

- 登録情報が正しくない場合は、[いいえ]をクリックして手順**5**に戻ります。

8 「インストール先の選択」画面で、インストールするドライブとフォルダー名を決めます。自動的にインストール先が選択されます。インストールするドライブとフォルダー名を変えたい場合は、[参照]ボタンをクリックしてインストール先のフォルダーを選択してください(ドライブ: ¥フォルダー名)。

NOTE

- 通常はインストール先を変更する必要はありません。

9 ドライブとフォルダー名を確認して、[次へ]をクリックします。インストールが開始されます。

NOTE
- インストールを中断するには、[キャンセル]をクリックしてください。

10 インストールが完了すると、続けてAudio Mixerのインストールを行なうかどうかの確認の画面が表示されます。Audio Mixerをインストールする場合は[はい]をクリックします。

NOTE
- Audio Mixerをインストールする必要がない場合は[いいえ]をクリックします。

11 続けてTWEのインストールを行なうかどうか確認の画面が表示されます。TWEをインストールする場合は[はい]をクリックします。

NOTE
- TWEをインストールする必要がない場合は[いいえ]をクリックし、手順**15**に進みます。

12 TWEのセットアップの初期化が行なわれ、「ようこそ」という画面が表示されます。

13 [次へ]をクリックします。「インストール先の選択」画面で、TWEをインストールするドライブとフォルダー名を決めます。通常はインストール先を変更する必要はありません。

NOTE
- インストール先を変更したい場合は、[参照]ボタンをクリックしてインストール先のフォルダーを選択してください。

14 [次へ]をクリックすると、インストールが開始されます。

NOTE
- インストールを中断するには、[キャンセル]をクリックしてください。

15 インストールが完了すると、インストール完了のメッセージが表示されます。[完了]をクリックします。

16 セットアップ完了のメッセージが表示されます。インストールしたソフトウェアを有効にするためには、「はい、今すぐコンピューターを再起動します。」が選択されていることを確認して、[完了]をクリックしてください。
コンピューターが再起動します。

これでインストールが完了しました。

プラグインエフェクトのインストール

1 「VST_」フォルダーをダブルクリックします。
「Setup.exe」などのファイルが表示されます。

2 「Setup.exe」をダブルクリックします。
インストールの準備が終わると、「ようこそ」という画面が表示されます。

3 [次へ]をクリックします。ユーザー情報の画面が開きますので、お名前、会社名、シリアル番号を入力してください。
セットアップダイアログが表示されます。

NOTE
- シリアル番号は、ユーザー登録カードに記載されておりますので、そちらをご参照ください。
- ここでの入力はインストールのためのものです。製品のユーザー登録は、別途行なってください(31ページ)。

4 [次へ]をクリックします。登録内容の確認画面が開きますので、正しいことを確認して[はい]をクリックします。

NOTE
- 登録情報が正しくない場合は、[いいえ]をクリックして手順**3**に戻ります。

5 インストールするプラグインの選択画面が表示されます。インストールしたいプラグインソフト名にチェックをつけ、[次へ]をクリックします。

6 インストールするプラグインソフトの確認画面が表示されますので、正しいことを確認して[はい]をクリックします。

NOTE
- インストールするソフトウェアを変更したい場合は、[戻る]をクリックして、手順**5**に戻ります。

7 「インストール先の選択」画面で、VSTプラグインの取扱説明書(PDF)とセットアップをインストールするドライブ/フォルダーを決めます。自動的にインストール先が選択されるので、通常は変更しないことをおすすめします。

NOTE
- ドライブ/フォルダーを変えたい場合は、[参照]ボタンをクリックしてインストール先のフォルダーを選択してください。

8 [次へ]をクリックします。プラグインエフェクトモジュールのインストール先となるVstPluginsフォルダーを選択する画面が表示されます。お使いのホストアプリケーションに合わせて、インストール先にしたいフォルダーを選び、チェックをつけます。

NOTE
- VSTプラグインソフトをSQ01で使用するためには、「Program Files¥YAMAHA¥VstPlugins」にチェックが入っている必要があります。
- インストール先にしたいフォルダーがリストにない場合は、[フォルダを追加]をクリックして、「フォルダの参照」ダイアログから選択してください

9 [次へ]をクリックすると、インストールが開始されます。

10 インストールが完了すると、インストール完了の画面が表示されます。[完了]をクリックします。

インストールした付属のVSTプラグインを、新たに別のホストアプリケーションで使う

付属のVSTプラグインソフト(Pitch Fixなど)をインストール後、新たに別のVSTホストアプリケーションで使用する場合、ホストアプリケーションが指定するVstPluginsフォルダーに、Pitch FixなどのVSTプラグインをコピーして使用します。

1 [スタート]メニュー→[(すべての)プログラム]→[YAMAHA VST Plugins]→[(VSTプラグイン名)]→[セットアップ]を選択します。
「ようこそ」という画面が表示されます。

2 [変更]を選択し、[次へ]をクリックします。

3 VSTプラグインモジュールのコピー先を指定する画面が表示されます。ここで、VSTプラグインを使用したいホストアプリケーションに対応したVstPluginsフォルダーにチェックをつけます。

NOTE

- 詳しくは、ホストアプリケーションの取扱説明書をご参照ください。

4 [次へ]をクリックします。
コピーが実行されます。

NOTE

- コピーを中断するには、[キャンセル]をクリックします。

プラグインエフェクトのアンインストール

1 [スタート]メニュー→[(すべての)プログラム]→[YAMAHA VST Plugins]→[(プラグインエフェクト名)]→[セットアップ]を選択します。
「ようこそ」という画面が表示されます。

2 [削除]を選択し、[次へ]をクリックします。
ファイル削除の確認画面が表示されます。

3 [OK]をクリックすると、アンインストールが実行されます。

NOTE

- アンインストールを中止するには[キャンセル]をクリックします。

MIDIポートの設定 (アプリケーションを単独で起動する場合)

Studio Manager/Multi Part EditorでMIDIポートを選択する前にMIDI SetupツールバーでMIDIポートを設定する必要があります。

NOTE

- 各アプリケーションを、Open Plug-in Technology(オープンプラグインテクノロジー)対応アプリケーションソフト(SQ01 V2/SOL2など)のプラグインとして使う場合については、それぞれのオンラインマニュアルをご参照ください。

1 アプリケーションを起動してください。

2 以下のようなMIDI Setupツールバーが表示されますので、MIDI Setupボタンを押してください。

MIDI Setupボタン

3 MIDI Setupボタンを押すとMIDI Setupダイアログが表示されますので、MIDI機器/MIDIアプリケーションが接続されているMIDI In/Out/Thruの各ポートを設定してください。また、Multi Part Editor for MOTIF-RACKをリモートコントロールする場合はmLAN MIDI In/Out Port 5を、Studio Managerを使用する場合はmLAN MIDI In/Out Port 4を有効にしてください。

NOTE

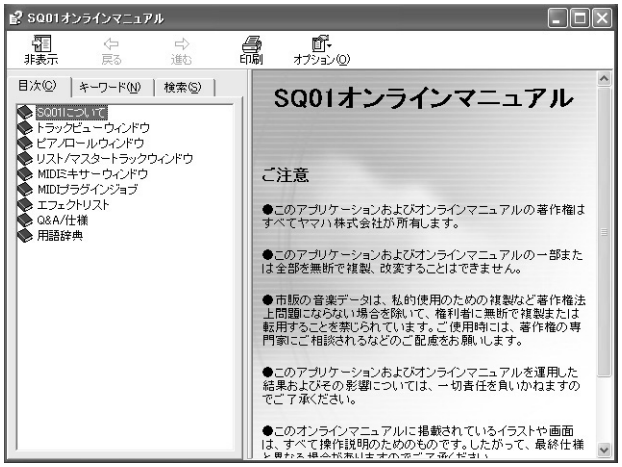
- Studio Manager/Multi Part EditorにおいてMIDIポートを有効にするには、それぞれのアプリケーションの設定ダイアログでMIDIポートを選択する必要があります
(上記のMIDI Setupダイアログで設定されたMIDIポートの中からどれを使用するかの選択になります)。
設定方法の詳細はそれぞれのアプリケーションのオンラインヘルプ/PDFマニュアルをご参照ください。

オンラインマニュアルのご案内

SQ01には、画面上で利用できるオンラインマニュアルが付属しています。オンラインマニュアルは、SQ01をインストールすると、いっしょにインストールされます。
各機能の内容や使用方法を知りたい、というときなどに、オンラインマニュアルをご活用ください。ソフトウェアをバージョンアップすると、バージョンアップにともなう変更点を反映したオンラインマニュアルが付属するので、いつも最新の情報で調べることができます。
オンラインマニュアルでは、調べたい内容を「目次」や「キーワード」から探せます。また、ウィンドウの大きさや表示方法を変更できるので、説明を読みながらソフトを操作することも可能です。

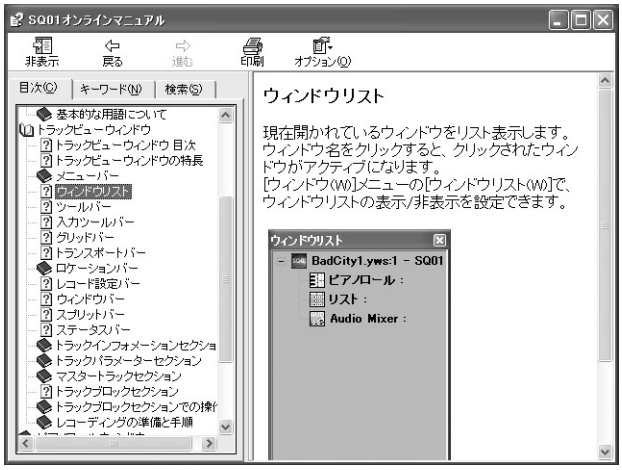
オンラインマニュアルの使い方

各ウィンドウの[ヘルプ]メニューから[オンラインマニュアル]または[キーワード]を選択すると、オンラインマニュアルが表示されます。



[目次]ページでの項目の選び方

[目次]ページでは、調べたい機能を、大きな項目から順番に絞り込みながら探していくことができます。



1 [目次]タブをクリックして、[目次]ページを表示します。

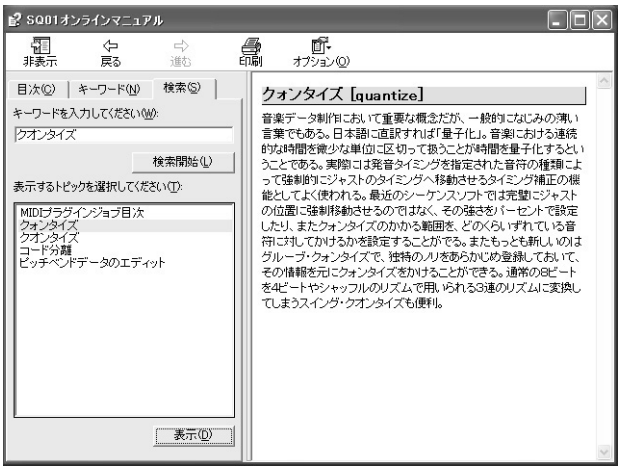
2 調べたい機能が含まれる項目の左側にある本のマークをダブルクリックすると、関連する項目が一覧表示されます。

3 項目名をクリックすると、その項目に関する解説が表示されます。

4 解説文中のアンダーラインの付いた青色の文字をクリックすると、関連する項目に移動できます。

[検索]ページでの項目の選び方

[検索]ページでは、調べたい機能を文字入力して検索を実行することで、関連する項目を直接探し出すことができます。



1 [検索]タブをクリックして、[検索]ページを表示します。

2 [キーワードを入力してください]の欄に、コンピューターのキーボードから、調べたい機能名を入力します。機能名がわからないときには、機能名の一部や関連する用語などを入力します。

3 [検索開始]ボタンをクリックすると、[表示するトピックを選択してください]欄に、入力した用語が含まれる項目が一覧表示されます。

4 表示させたい項目をクリックして反転させ、[表示]ボタンをクリックすると、その項目に関する解説が表示されます。

Macintoshユーザーの方へ

CD-ROMの内容

Macintosh用のソフトウェアとソングデータが2枚のCD-ROMに納められています。

●TOOLS for 01X

フォルダー名	ソフト名	説明
Acroread_	Acrobat Reader*1*2	アプリケーションソフトのPDFマニュアルをコンピューター上で閲覧できるようにします。 ・コンピューターの[F1]ボタンを押すと、オンラインヘルプを起動できます。
StudioManager_	Studio Manager*1	01Xのミキサー (INTERNAL)のさまざまな設定をコンピューターで編集/管理するソフトウェアです。01Xとのデータの送受信にはmLAN MIDI Port 4を使用します。 ・[Help]メニューから[Manual]を選択すると、PDFマニュアルを表示できます。 ・インストール手順は22ページをご参照ください。
mLAN_	mLAN Driver mLAN Tools	01XとコンピューターをmLAN接続して使用するのに必要なソフトウェアです。 ・インストール手順は18ページをご参照ください。
OMS_	Open Music System (OMS) 2.3.8*2	01XとコンピューターをmLAN接続してMIDIデータ(リモートコントロール/Studio Managerデータ)を送受信するのに必要なソフトウェアです。 ・インストール手順は18ページをご参照ください。
	OMS Setup for YAMAHA(フォルダー)	01X用のOMSセットアップファイルが入っています(21ページ)。
NIdemo_	B4 (Demo)*2 Pro-53 (Demo)*2	Native Instruments社のVSTプラグインソフトウェア音源のデモ版です。「NIdemo_」フォルダー内で、インストールしたいプラグインソフト名のついた実行ファイル(***Demo Install/installer)をダブルクリックし、画面の指示に従ってインストールしてください。
DemoSong	デモソング ・Logic*2	01Xをリモートコントローラーとして使用する際のLogic用デモソングデータです。付属のプラグインを使用していますので、下記ソフトエフェクトの効果を確認することもできます。

●Plug-in Effect

・VST規格に対応したプラグインソフトです。
・インストール先のディスク/YAMAHA/Plug-in Effect/各ソフトウェアのフォルダーにPDFマニュアルが用意されています。
・プラグインエフェクトのインストール手順は23ページをご参照ください。

フォルダー名*1		ソフト名	内容
Mac OS 9	VST_	01X Channel Module*1	01Xの各チャンネルに搭載されているEQ(イコライザー)とダイナミクス効果をコンピューターのCPUパワーを使って実現するソフトウェアです。Studio Managerを使って、01Xと設定データをやりとりできます。
		Pitch Fix*1	ボーカルのピッチ(音の高さ)編集を行なうためのソフトウェアです。ボーカルのピッチを修正するだけでなく、声質を変更することもできます。Pitch Fixをホストアプリケーションからの MIDI情報でコントロールすることも可能です。ホストアプリケーション上での設定方法についても、Pitch Fix取扱説明書PDFをご参照ください。
		Vocal Rack*1	ボーカルレコーディング用のマルチエフェクターです。ハイパスフィルター、コンプレッサー、3バンドイコライザーなどの様々なエフェクトが用意されています。
		Final Master*1	マスタリング用のマルチエフェクターです。コンプレッサーとリミッター、ソフトクリップ機能が用意されており、3バンドの帯域分割処理が可能です。

*1 これらのソフトウェアには電子マニュアルが付いています。

*2 このソフトウェアはヤマハではサポートしません。

*3 **Mac OS X対応のPlug-in Effectについて**

Mac OS Xフォルダに収録されているソフトウェアは、Mac OS Xにて動作するVST/Audio Units対応の01X Channel Module、Pitch Fix、Vocal Rack、Final Masterです。これらのソフトウェアは、01X本体のドライバーがMac OS Xに対応していないため、現在(2003年11月)のところ01Xと組み合わせてご使用いただくことはできません。01X本体は、Apple Computer社との共同開発にて、Mac OS X対応を予定しております。最新情報およびMac OS X環境でのインストール方法については、下記のURLをご参照ください。

<http://www.yamaha.co.jp/product/syndtm/>

01XをiBookやPowerBookなどのノート型MacintoshとmLAN接続してご使用になる場合には、Macintosh起動時に、あらかじめ01XとMacintoshをmLANケーブルで接続し、01Xの電源を入れておく必要があります。

01X/ソフトウェアの動作環境

付属のソフトウェアをお使いいただくには、以下のコンピューター環境が必要です。

NOTE

- お使いのOSによっては、下記の仕様以上の条件を満たす必要があります。
- 各社DAWの動作環境については、それぞれの取扱説明書をご参照ください。

□01X(mLAN Driver/mLAN Toolsの動作環境を含む)

この動作環境は、mLAN Driver/mLAN Tools、オーディオシーケンサー、プラグインエフェクトを含んだ総合的なものです。

OS ：Mac OS 9.2 (Mac OS XおよびClassic環境は含まず)
コンピューター ：S400(転送スピード400Mbps)のFireWire端子を搭載したもの (*1)

・推奨動作環境 (*2)
コンピューター ：G4/G3 900MHz以上
メモリー ：512MB以上(仮想メモリーは「切」にしてください)
ハードディスク ：175MB以上の空き容量、高速なハードディスク

・最低動作環境 (*3)
コンピューター ：G4 Dual 450MHzまたはG4/G3 Single 700MHz以上
メモリー ：320MB以上(仮想メモリーは「切」にしてください)
ハードディスク ：175MB以上の空き容量、高速なハードディスク

*1 IEEE 1394 (FireWire) 端子またはi.LINK端子を搭載したコンピュータが必要です。搭載していない場合は、PCMCIAまたはPCIカードなどを別途ご用意ください。
詳細な動作環境や推奨のPCMCIA, PCIカードについては
http://www.yamaha.co.jp/product/syndtm
をご覧ください。

*2 上記推奨動作環境は標準的なシーケンスソフトウェアにて、下記のオーディオ/MIDIを録音/再生しながら、同梱のソフトエフェクトなどを使用した場合です。お使いのシーケンスソフトウェアにより異なる場合があります。
Fs=44.1kHz/24bit
Audio Driver 24 In/18 Outアクティブ
MIDI Driver 4 In/4 Out(リモートコントロール/オートメーションを含む)
Audio x 12トラック再生
Audio x 2トラック録音
MIDI x 16トラック再生
MIDI Remote Control/Automation
Send Plug-in Soft Effect 2系統
Insert Plug-in Soft Effect 10系統
Plug-in Soft Synthesizer 3系統
Latency 5msec以下

*3 上記最低動作環境は標準的なシーケンスソフトウェアにて、下記のオーディオ/MIDIを再生しながら、同梱のソフトエフェクトなどを使用した場合です。お使いのシーケンスソフトウェアにより異なる場合があります。
Fs=44.1kHz/16bit
Audio Driver 8 In/2 Outアクティブ
MIDI Driver 1 In/1 Out(リモートコントロール/オートメーション)
Audio x 12トラック再生
MIDI Remote Control/Automation
Send Plug-in Soft Effect 2系統
Insert Plug-in Soft Effect 6系統
Plug-in Soft Synthesizer なし
Latency 90msec程度

□Studio Manager

OS ：Mac OS 8.6～9.2.2 (Mac OS XおよびClassic環境は含まず)
コンピューター ：G3/233 MHz以上、FireWire端子搭載
メモリー ：80 MB以上(仮想メモリーは「切」にしてください)
ハードディスク ：7MB以上の空きスペース
ディスプレイ ：1024×768ドット、256色以上
(1280×1024ドット High Color 16ビット推奨)

□Plug-in Effect

OS ：Mac OS 8.6～9.2
Mac OS X 10.2

NOTE

- PowerBookをバッテリーでお使いの場合は、「省エネルギー設定」コントロールパネルを開き、「プロセッサーサイクリング」をオフにしてください。

ソフトウェアのインストール

ここで説明のないソフトウェアのインストールについては、「CD-ROMの内容」(17ページ)をご参照ください。

Acrobat Readerのインストール

各アプリケーションに付属のPDFマニュアルをコンピューター上で見るために、あらかじめこのソフトウェアをインストールする必要があります。コンピューターにすでにAcrobatがインストールされている場合は再インストールする必要はありません。

1 「Acroread_」フォルダー→「Japanese」フォルダーをダブルクリックします。
「Japanese Reader Installer」(インストーラー)が表示されます。

2 「Japanese Reader Installer」をダブルクリックします。
Acrobat Readerのセットアップダイアログが表示されます。

3 画面の指示に従ってインストールを実行します。
インストールが完了したら、コンピューター上(デフォルトではハードディスク上)に「Adobe Acrobat」フォルダーが追加されます。

操作については[ヘルプ]メニューの[Readerのヘルプ]をご参照ください。

mLANソフトウェア/OMSのインストール

mLAN TOOLSは、mLANの各種の設定をコンピューター上で行なうためのソフトウェアです。
mLAN Driverは、DAW(デジタルオーディオワークステーション)と01Xの間でオーディオデータやリモートコントロール情報をはじめとするMIDI信号をmLANケーブルを通じてやりとりするためのソフトウェアです。
次の手順でインストールします。

NOTE

- エラーメッセージが表示されたときは29ページをご参照ください。
- アンインストールについては21ページをご参照ください。

インストール前の準備

1 コンピューターを起動します。

mLANを使用する際は、コンピューターの省電力(スリープ)モードや省電力モードに入る設定は使用しないでください。仮想メモリーを使用しているときは「切」に設定して再起動してください。

NOTE

- データレート規格がS200(お使いの機器のリアパネルまたは取扱説明書の「仕様」参照)のmLAN機器をお使いの場合は、あらかじめ古いmLAN Toolsをアンインストールしておいてください(ヤマハのmLAN製品をご使用の場合は、ご使用の機器のインストールガイドをご参照ください。その他のmLAN製品をご使用の場合は、それぞれの機器に付属の取扱説明書をご参照ください)。

2 アプリケーションを終了し、使っていないウィンドウをすべて閉じます。

3 01XのMIDI IN/OUTに接続されているMIDI機器の接続ケーブルをすべて外しておきます。

4 01XをコンピューターのIEEE 1394(FireWIre/i.LINK)端子にハブを使わず直接つなぎ、01X以外のIEEE 1394機器は、コンピューターから外します。

5 付属のCD-ROMをCD-ROMドライブに挿入します。

OMSのインストール

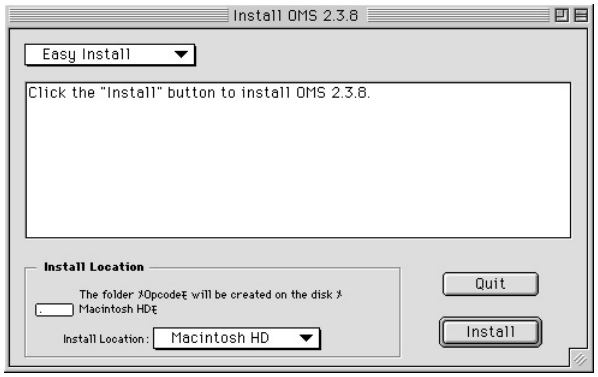
NOTE

・コンピューターにすでにOMS2.3.3JまたはOMS2.3.8がインストールされている場合は再インストールする必要はありません。

6 「OMS_」フォルダーをダブルクリックします。
「Install OMS2.3.8」(インストーラー)が表示されます。

7 「Install OMS2.3.8」をダブルクリックします。
OMSのセットアップダイアログが表示されます。

8 [Easy Install](簡易インストール)では、OMSの簡易インストールセットをインストールします。通常はこちらを選びますが、必要に応じて、[Custom Install]を選択します。



9 「Install Location」(インストール場所)欄にインストール先(起動ディスク)が自動的に表示されています。インストール先を変更する場合は、プルダウンメニューからインストール先を選択します。

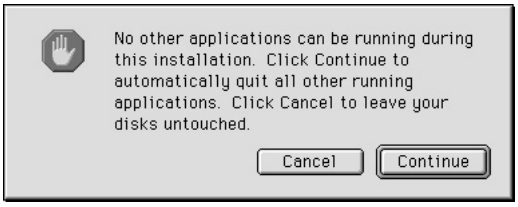
NOTE

・通常はインストール先を変更する必要はありません。

10 [Install](インストール)をクリックすると、「他のアプリケーションの動作中は、インストールできません。[Continue]をクリックすると、すべてのアプリケーションが自動的に終了します」という英語のメッセージが表示されます。[Continue]をクリックします。

NOTE

・インストールを中止したい場合は、[Cancel]をクリックします。



NOTE

・「Do you have an Opcode Studio 4, Studio 5, or Studio "x" series MIDI interface?」(Opcode Studio 4, Studio 5, Studio "x" series MIDI interfaceを使用していますか?)と表示された場合は、環境に応じて[YES]または[NO]を選択します。

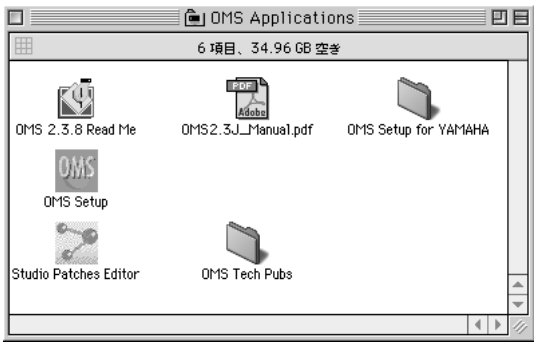
11 インストールが終わると、「インストールが完了しました」という英語のメッセージが表示されますので[Restart](再起動)をクリックします。

NOTE

・インストール終了時に、「アプリケーションを終了することができませんでした。」という意味のメッセージが表示されることがあります。
このようなメッセージが表示された場合は、ファイルメニューから[Quit](終了)を選択してインストーラーを終了し、コンピューターを再起動してください。
再起動後、コンピューター上(デフォルトでは起動ディスク上)に「Opcode」/「OMS Applications」フォルダーが追加されます。

12 CD-ROM内の「OMS2.3J_Manual.pdf」をドラッグ&ドロップで、「OMSアプリケーション」フォルダーにコピーします。操作についてはこの「OMS2.3J_Manual.pdf」をご参照ください。

13 CD-ROMの「OMS Setup for YAMAHA」フォルダーを「OMSアプリケーション」フォルダーにドラッグ&ドロップでコピーします。
この「OMS Setup for YAMAHA」フォルダーには、01X用のOMSセットアップファイルが入っています。テンプレートとしてご使用ください(21ページ)。



mLAN TOOLSのインストール

14 「mLAN_」フォルダーを開き、「Install mLAN for 01X」アイコンをダブルクリックします。
mLAN Driver/mLAN TOOLSのインストール開始画面が表示されます。自動的にインストールの場所が選択されています。インストール先を変えたい場合は、[インストールの場所]のメニューをクリックしてインストール先を選択します。

NOTE

・通常はインストール先を変更する必要はありません。

15 [簡易インストール]が選ばれているのを確認して、[インストール]をクリックします。確認のメッセージが表示されますので、[続ける]をクリックします。

16「システムフォルダに“OMS Folder”が見つからない」という内容メッセージが表示された場合は、インストール終了後に、インストール先の「mLAN Tools」フォルダーの「Into OMS Folder」にある「mLAN OMS Driver」を、システムフォルダの「OMS Folder」にコピーしてください。

17 ASIO Driversフォルダーを検索する旨のメッセージが表示されますので、[OK]をクリックします。検索結果が表示されます。

18 ASIO mLAN Driverのインストール先を選択して[OK]をクリックします。

NOTE

- 「“ASIO Drivers”フォルダーが見つからない」という内容メッセージが表示された場合は、インストール終了後に、インストール先の「mLAN Tools」フォルダーの「Into ASIO Drivers」にある「ASIO mLAN Basic」を、お使いのアプリケーションの「ASIO Drivers」フォルダーにコピーしてください。

19 01Xの電源を入れます。

20 インストールが完了すると、インストール完了のメッセージが表示されます。
[再起動]をクリックします。

mLAN Auto W.CLKの設定(01X)

21 再起動すると、mLAN Auto Connectorが起動しますので01XのmLAN AUTO W.CLK(オートワードクロック)を次の手順でENABLE(有効)にして、mLAN AUTO Connectorからの設定を受信できる状態にします。01Xでの設定は、mLAN AUTO Connectorでの接続後に行なうこともできます。

<u>01Xの設定</u>

21-1 01Xの[UTILITY]ボタンを押してUTILITYモードに入ります。

21-2 W.CLK(チャンネルノブ3)を押して、mLAN AUTO W.CLK画面を開きます。

```
UTILITY   mLAN AUTO W.CLK          [INT : 48 kHz] 1/2
ENABLE/DISABLE
 1   2   3   4   5   6   7   8
```

21-3 ENABLE(チャンネルノブ1)を押します。

21-4 確認のメッセージ(ENABLE SURE?)が表示されますので、チャンネルノブ8を押して実行します。

NOTE

- すでにENABLE(有効)になっているときは、確認のメッセージは表示されません。次の手順にお進みください。

NOTE

- 01Xのユーティリティの設定は、システムバックアップ(01X取扱説明書参照)をしないかぎり、電源を切ると失われます。ここでの設定を次回、電源を入れたときにも有効にするには、[SHIFT]+[UTILITY]でシステムバックアップを実行してください。

mLAN Auto Connectorによる設定

22 mLANを使用する環境に応じてmLAN Auto Connectorの設定を選択します。

Sample Rate ..... サンプリング周波数(ワードクロックの周波数)を選択します
From 01X to Mac... 01XからコンピューターへのmLANオーディオ送信チャンネル数を選択します
From Mac to 01X... コンピューターから01XへのmLANオーディオ送信チャンネル数を選択します

NOTE

- mLAN Auto Connectorを使ってmLAN接続する際に、ノイズが発生することがあります。mLAN Auto Connectorで「接続」操作を行なうときは、出力を絞ってください。
- 01XのLAYERが17-24(mLAN)のときに、96kHz/88.2kHzに設定すると、LAYER[1-8]に移動し、チャンネル1が選ばれます。

Wordclock Transition Speedの設定

mLAN Auto Connectorの画面で[Setup]をクリックすると、設定画面が開きます。
01XのワードクロックがmLAN上でスレーブになっていて、そのワードクロックが変動する場合、元の設定から新しい設定に緩やかに移るか、速く移るかを設定できます。

Slow....ワードクロックが緩やかに移りかわります。通常はSlowで使用します
Fast.....ワードクロックが速やかに移りかわります(ジッターノイズが比較的多くなります)

23 [接続]をクリックします。正しく接続されると、mLAN Auto Connectorが終了し、01Xがスレーブの状態でmLANによる通信が開始されます。

NOTE

- 接続がうまくいかなかったときは、インストール先のmLAN ToolsフォルダーにあるmlAN Auto Connectorを再起動し、もう一度[接続]をクリックしてください。
- Auto Connentorを起動すると、初回のみ下記のファイルが「ゴミ箱」に入ります。これらのファイルは削除して問題ありません。
  - AutoConnector01X alias
  - AutoConnector01X launcher

OMSのセットアップ

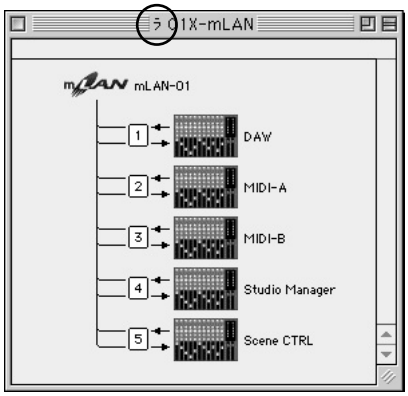
NOTE

- お使いのMacintoshに1394インターフェイスカードを追加して、mLANを使用する場合には、インストールCDに付属の01X-mLAN OMS Setup fileを使わずにOMS Setupで新たにStudio Setupを作り直してください。詳しくはOMSのマニュアルをご参照ください。

24 「OMS」フォルダー→「OMS Setup for YAMAHA」フォルダーの中にある、「01X-mLAN」スタジオセットアップファイルをハードディスクにコピーします。

25 「01X-mLAN」スタジオセットアップファイルをダブルクリックして、OMS Setupを起動します。

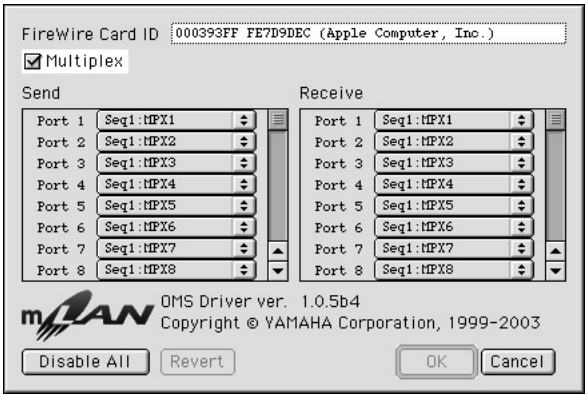
26 OMS Setupが起動すると、先ほど立ち上げたスタジオセットアップファイルが開きます。タイトルバーに表示されたファイル名の先頭に「ラ(◇)」が表示されていることを確認してください。「ラ(◇)」が表示されない場合には、「File(ファイル)」メニュー→「Make Current(セットアップを有効にする)」を選択します。「ラ(◇)」の表示を確認後、保存します。



これで、OMSのセットアップは完了です。アプリケーションを使用する際は、さらにOMSポートの設定が必要です(22ページ)。

NOTE

- mLANデバイスのアイコンをダブルクリックするか、mLANデバイスを選択して「スタジオ/Studio」メニューから「MIDI Device Info...」を実行すると、Device Infoダイアログボックスが表示されます。01XなどのmLAN機器では、アプリケーション(mLAN Auto Connectorなど)で自動的に設定されていますので、変更しないでください。設定を変更してしまった場合は、以下の図のとおりに設定しなおしてください。



01X-mLANのスタジオセットアップファイルを読み込んだときの各MIDIポートの設定名(デバイス名)は以下のとおりです。固定となっている01XのMIDIポートの機能に対応しています。お使いのアプリケーションで適切なデバイス(ポート)を選んでください。

01Xの各ポートの機能

MIDIポート	デバイス名	用途
1	DAW	DAWのリモートコントロール
2	MIDI-A	MIDI A端子と直接端子(MIDI/mLAN MIDI変換)
3	MIDI-B	MIDI B端子と直接端子(MIDI/mLAN MIDI変換)
4	Studio Manager	Studio Managerとの送受信
5	Scene CTRL	プログラムチェンジによるシーン切り替え(リコール)/外部機器へのプログラムチェンジの送信

NOTE

- 前記のスタジオセットアップを行なった場合、01Xのみが認識されます。01X以外の楽器をUSB接続する場合や、すでにOMSを使用していて新たに01Xをシステムに加える場合などは、独自のスタジオセットアップを作成する必要があります。詳しくは、付属の「OMS2.3J_Manual.pdf」をご参照ください。
- お使いのMacintoshやOSのバージョンによっては、左記の手順で操作しても同梱の01X用スタジオセットアップファイルが動作しない場合があります。(セットアップが有効になっても、MIDIの送受信はできません。)この場合、01XとMacintoshを接続した後、以下の手順でセットアップファイルを作りなおしてください。

1 OMS Setupを起動し、「File」メニューより「New Studio Setup」を選びます。

2 OMSドライバー検索ダイアログが表示されますので、[Modem]および[Printer]のチェックを必ずはずして、[検索]ボタンをクリックし、デバイスの検索を行ないます。
デバイスの検索に成功すると、OMS Driver SetupダイアログでmLAN-01というデバイスが表示されます。

3 [OK]ボタンをクリックして、さらにポートを検索します。01Xの場合、Port1、Port2...などという名称になります。各ポートのチェックボックスをチェックしたのち、[OK]ボタンをクリックし、保存します。

インストール後の確認

以下のファイルがインストールされています。

起動ディスクのコントロールパネル

mLAN Driver Setup (10ページ)

NOTE

- mLAN Driver Setupを使って、mLANによるデータの送受信が正常に行なわれているかを確認することができます。

起動ディスクの機能拡張

mLAN Driver
mLAN Expert
mLAN Family
mLAN Transporter Family

インストール先のフォルダー

mLAN Toolsフォルダー
Opcode/OMS Applications

システムフォルダー

コントロールパネル/mLAN Driver Setup
OMS Folder/mLAN OMS Driver
初期設定/mLAN HALs/01XTransporter.hal
初期設定/mLAN Prefsフォルダー

* **アンインストール**する場合は上記のファイルとフォルダーを削除してください。OMSに関するファイルなど、インストール前からあったデータを削除しないようご注意ください。

インストール後の設定変更

インストール後のmLANに関する設定変更は、コントロールパネルのmLAN Driver Setupを起動して行ないます。

mLAN Driver Setup

mLAN通信の設定や送受信の確認をするための画面です。設定を変更する場合は、mLANを使用しているアプリケーション(DAWなど)を終了してください。設定できる内容は、Windowsと同様です。10ページをご参照ください。

NOTE

- Modeの設定および[EXIT]ボタンはWindowsのみです。
- ワードクロック(サンプルレート)、使用するチャンネル数を変更するには、mLAN ToolsフォルダーにあるmLAN Auto Connectorを起動します。

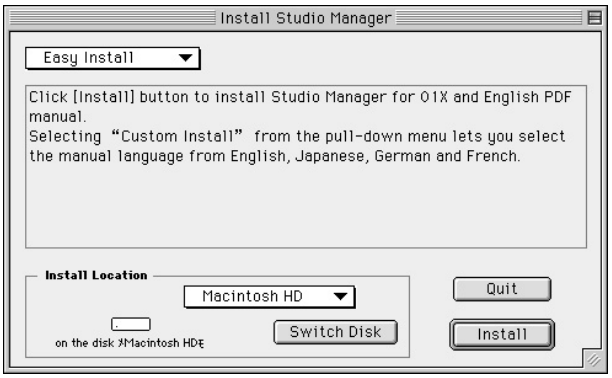
Studio Managerのインストール

Studio Managerのインストール

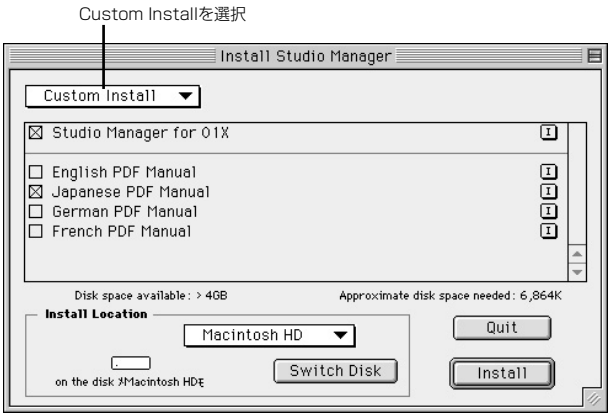
1 「StudioManager_」フォルダーをダブルクリックします。
Studio Managerのインストール開始画面が表示されます。自動的にインストールの場所が選択されています。インストール先を変えたい場合は、[Install Location](インストールの場所)のメニューをクリックしてインストール先を選択します。

NOTE

- 通常はインストール先を変更する必要はありません。



2 日本語のStudio Manager取扱説明書(PDF)をインストールするために、[Custom Install]を選択し、「Studio Manager for 01X」と「Japanese PDF Manual」のチェックボックスにチェックを入れ、[Install]をクリックします。



3 インストールが終わると、「インストールが完了しました」という英語のメッセージが表示されますので[Quit](終了)をクリックします。

OMSポート設定

4 インストール先の「Studio Manager for 01X」フォルダーにある「SM_01X」をダブルクリックしてStudio Managerを起動します。

NOTE

- AppleTalkがオンの場合は、ボイスエディターの起動時にアラートが出ます。その場合「オフにする」をクリックしてください。AppleTalkの切り替えには時間がかかります。

5 Studio ManagerのFileメニューから、[Select OMS Ports]を選択します。OMSポートの設定画面が表示されます。

以下はOMSのスタジオセットアップに01X-mLAN用を使用した例です。

Input Port:「Studio Manager」(Port4)を選択します。
Output Port:「Studio Manager」(Port4)を選択します。

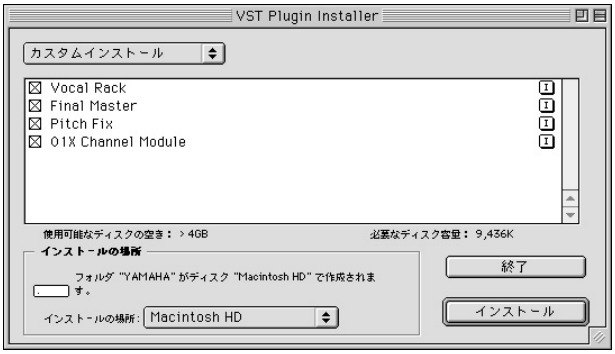
6 [OK]をクリックして、設定を終了します。

VSTプラグインエフェクトのインストール

1 「Mac OS 9」フォルダーをダブルクリックします。
「VST_」フォルダーが表示されます。

2 「VST_」フォルダーをダブルクリックします。
「VST Plugin Installer」ファイル(インストーラー)が表示されます。

3 「VST Plugin Installer」をダブルクリックします。
インストールするプラグインの選択画面が表示されます。インストールしたいプラグインソフト名にチェックをつけます。「インストールの場所」で、プラグインエフェクトの取扱説明書(PDF)をインストールするハードディスクを決めます。自動的にインストール先が選択されるので、通常は変更しないことをおすすめします。



4 [インストール]をクリックします。ユーザー情報の画面が開きますので、お名前、会社名、シリアル番号を入力してください。

NOTE

- シリアル番号は、ユーザー登録カードに記載されておりますので、そちらをご参照ください。
- ここでの入力はインストールのためのものです。製品のユーザー登録は、別途行なってください(31ページ)。

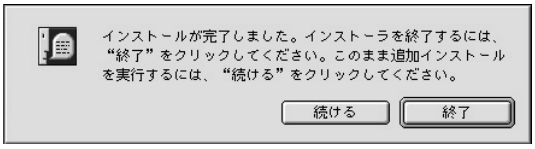
5 [続ける]をクリックします。プラグインエフェクトモジュールのコピー先を指定する画面が表示されます。
ここで、プラグインエフェクトを使用したいホストアプリケーションに対応したVstPluginsフォルダーを1つ選びます。

NOTE

- VstPluginsフォルダーが1つしか存在しない場合は、「フォルダの選択」画面は表示されません。このまま手順 **7**に進みます。
- VstPluginsフォルダーが1つもない場合は、表示されるダイアログで、どのフォルダーにインストールするか指定してください。

6 [OK]をクリックすると、インストールが開始されます。

7 インストールが完了すると、インストール完了の画面が表示されます。



インストールを終了する場合は[終了]をクリックします。
手順 **5**で選択したVstPluginsフォルダー以外の場所にモジュールをコピーしたい場合は、[続ける]をクリックして、手順 **3**から同じ操作を繰り返します。

デモソングの再生/リモートコントロールの設定

01Xからリモートコントロールできるソフトウェア

SOL2 (ver 2.0 以上)
Logic 5 series (ver 5.1 以上)
Cubase SX (ver 1.0.3 以上)
Digital Performer (ver 3.1 以上)
XGworks ST (ver 2.0 以上)
Logic 6 series (ver 6.0 以上)
Cubase SL (ver 1.0.3 以上)
Multi Part Editor for MOTIF-RACK/MOTIF ES
SQ01 V2 (ver 2.0 以上)
(Logic Plutinum/Gold/Audio)
Nuendo 2.0 (ver 2.0 以上)

NOTE

- 01X(mLAN使用時)の動作環境についても、合わせてご確認ください(5ページ、18ページ)。
- オーディオシーケンサーが01Xに送信する文字コードが原因で、01XのLCDに表示される文字が化けたり、表示される文字(パラメーター）と実際の操作に不整合が発生することがあります。

YAMAHA SOL2/SQ01 V2/XGworks ST（各日本語版）
01XのLCDに英語文字コードを表示するように開発されておりますので、問題なくご使用になれます（トラック名などには、日本語でなく、英語を使用してください）。

Cubase SX/Nuendo /Logic
部分的に文字化けが生じることがあるため、英語表示モードに切り替えてのご使用をおすすめいたします。英語表示モードへの切り替え方法については、それぞれのオーディオシーケンサーに付属の取扱説明書をご参照ください。

SONAR2（日本語版）
表示言語のモードを切り替えるなどの対処方法がないため、非対応とさせていたददきます。SONAR2/XL(Ver. 2.1 以上、英語版)には対応しています。

NOTE

- Cubaseの設定は取扱説明書のクイックガイドをご参照ください。

オーディオデータを扱う場合のヒント(Windows)

オーディオ機能を十分にお使いいただくために、以下の設定をおすすめします。これらの設定をすることで、再生音が途切れたりノイズが出たりする現象を低減できます。

- **ハードディスクのDMAモード(高速に転送するモード)をオンにする**
  DMAモードの設定は、[コントロールパネル]→[システム](→[ハードウェア])→[デバイスマネージャ]を開き、[ディスクドライブ]または[ハードディスクコントローラ]から行ないます。
- **プロセッサのスケジュールを「バックグラウンドサービス優先」に設定する**
  [コントロールパネル]→[システム]→[詳細設定]→「パフォーマンス」→[設定]→[詳細設定]を開き「プロセッサのスケジュール」で「バックグラウンドサービス優先」にチェックを入れます。
- **視覚効果を「パフォーマンスを優先する」に設定する**
  [コントロールパネル]→[システム]→[詳細設定]→「パフォーマンス」→[設定]→[視覚効果]を開き「パフォーマンスを優先する」にチェックを入れます。
- **自動更新をオフにする**
  [コントロールパネル]→[システム]→[自動更新]を開き、「コンピュータを常に最新の状態に保つ」のチェックを外します。
- **リモートアシスタンスをオフにする**
  [コントロールパネル]→[システム]→[リモート]を開き、「リモートアシスタンス」のチェックを外します。
- **クラシックスタートメニューにする**
  タスクバーを右クリック→[プロパティ]→[スタートメニュー]を開き、[クラシックスタートメニュー]にチェックを入れます。
- **メニューとヒントのアニメーション化をオフにする**
  [コントロールパネル]→[画面](→[デザイン])→[効果]を開き、[メニューとヒントをアニメーション化する]または[次のアニメーションの効果をメニューとヒントに使用する]のチェックを外します。

SQ01

SQ01のインストールが終了したら、[スタート]メニュー→[すべてのプログラム]→[YAMAHA SQ01 Ver2.0]→[SQ01]を選択して、SQ01を起動しましょう。

SQ01が起動しているときに、mLANケーブルで接続した外部機器の電源をオン/オフしたり、mLANケーブルを抜き差ししたりしないでください。コンピューターがハングアップしたり、外部機器の機能が停止したりするおそれがあります。

ここからは、SQ01でMIDI/オーディオデータを再生するための環境設定とリモートコントロールの設定をします。環境設定が終了したら、CD-ROMに入っているデモソングを再生してみましょう。

MIDI環境設定

01Xでリモートコントロールを行なう場合
外部MIDI機器(音源、MIDIキーボードなど)を使う場合

1 トラックビューウィンドウの[設定]メニューから[MIDI]→[デバイス]を選択して、以下のダイアログを表示します。

2 [入力]欄で、使用するMIDIキーボード(またはMIDIインターフェース)に対応したドライバーをクリックして選択(反転表示)します。01Xで使用するポート機能(21ページ)も選択します。
複数選択も可能です。

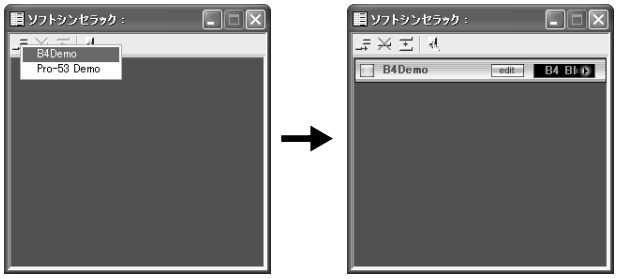
3 同様に、[出力]欄で、使用する音源(またはMIDIインターフェース)に対応したMIDIドライバーを選択して、[OK]をクリックします。01Xで使用するポート機能(21ページ)も選択します。

VSTインストゥルメント(プラグインソフトウェア音源)を使う場合

プラグインソフトウェア音源の設定は、ソングごとに保存されます。したがって、ソングを開いたときには、そのソングにあらかじめ保存してある設定が、自動的に呼び出されます。
ここでは、新しいソングを作成するときにプラグインソフトウェア音源VST版を設定する方法を説明します。

1 ツールバーから (ソフトシンセラック)をクリックして、ソフトシンセラックウィンドウを開きます。

2 (追加)ボタンをクリックして、表示されるポップアップメニューから使用するソフトウェア音源を選択します。

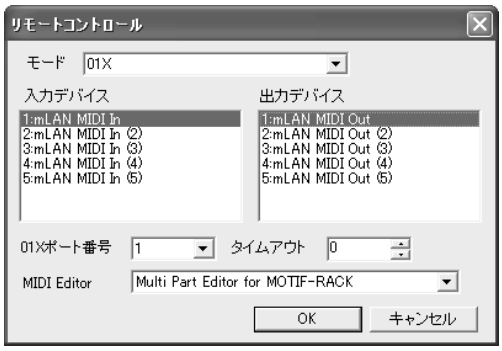


NOTE

- 追加ボタンをクリックしたときに表示されるポップアップメニューには、Program Files→Yamaha→Vstplugins内にあるプラグインソフトウェア音源が表示されます。その他の場所にあるプラグインソフトウェア音源を使用したい場合は、「VSTプラグインの設定」(26ページ)をご覧ください。

リモートコントロール設定

1 トラックビューウィンドウの[設定]→[リモートコントロール]を選択して、以下のダイアログを表示させ、次のように設定します。



モード: 01X
入力デバイス: mLAN MIDI In(ポート1)
出力デバイス: mLAN MIDI Out(ポート1)
01Xポート番号: 1

NOTE

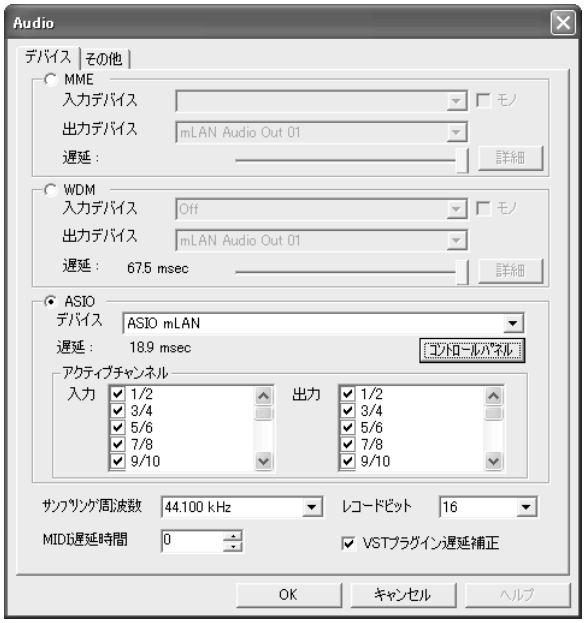
- Portのうしろにナンバーのついていないポートは、ポート1を示しています。
- Multi Part Editorを、SQ01のプラグインとして使用してリモートコントロールする場合は、MIDI EditorにMulti Part Editor for MOTIF-RACKを選択します。
- SQ01のMIDI Mixerを01Xからリモートコントロールすることはできません。
- Audio Mixerウィンドウの[設定]→[リモートコントロール]の設定は、無効となります。

2 01XのUTILITY→REMOTE(ノブ1)→REMOTESELECTで、「GENERAL」を選択します。

オーディオ環境設定

1 SQ01の[設定]メニュー→[オーディオ]で表示されるサブメニューで、[オーディオ無効]にチェックが入っていないことを確認します。
ここにチェックが入っていると、オーディオが使えません。この場合は、[オーディオ無効]をクリックして、チェックを外します。

2 [設定]メニューから、[オーディオ]→[デバイス]を選択して、以下のダイアログを表示します。



3 オーディオドライバーにASIOを選択して、デバイスに「ASIO mLAN」を選択します。

4 アクティブチャンネルの入力/出力で使用するチャンネルを有効にします(チェックマークを入れます)。

5 [OK]をクリックしてダイアログを閉じます。

VSTプラグインの設定

SQ01でVSTプラグインを使う場合、使用したいプラグインソフトのモジュールを[Program Files]→[YAMAHA]→[Vstplugins]フォルダーに入れる必要があります。SQ01に付属しているVSTプラグインソフトは、14ページの手順に従ってインストールした場合は、この場所にインストールされます。したがって、特別な設定をすることなく、SQ01で使用できます。
ここでは、他社製のVSTプラグインソフトをSQ01で使用したい場合の設定と、SQ01に付属のVSTプラグインソフトを、SQ01以外のホストアプリケーションで使用する場合の設定について説明します。

他社製VSTプラグインをSQ01で使う

SQ01では[Program Files]→[YAMAHA]→[Vstplugins]フォルダーにあるモジュールに加えて、もう一つVSTプラグインの場所を指定することができます。たとえば、ほかのアプリケーションで使用しているVSTプラグインソフトを、SQ01でも使えるわけです。以下のように設定します。

1 SQ01の[設定]メニューから[オーディオ]→[その他]を選択して、以下のダイアログを表示します。

2 [VSTプラグインフォルダ]欄の右にある[参照...]ボタンをクリックし、フォルダーの参照ダイアログを表示します。

3 使用したいVSTプラグインが入っているVstpluginsフォルダーを、リストから選択し、[OK]をクリックします。

4 Audioダイアログの[OK]をクリックして、ダイアログを閉じます。

NOTE

- そのほか、使用したいVSTプラグインのモジュールを[Program Files]→[YAMAHA]→[Vstplugins]フォルダーにコピーして、SQ01で使えるようにする方法もあります。詳しくは、お使いのVSTプラグインの取扱説明書をご参照ください。

プラグインエフェクトの割り当て

各モジュールには、最大4つのプラグインエフェクトを割り当てることができます。

割り当て方法については、Audio Mixserの[ヘルプ]メニューから[オンラインマニュアル]を起動し、「目次」の各モジュールの説明から「エフェクトプラグインセクション」をご参照ください。

デモソングの再生

1 デモソングファイル(AllforYouforSQ01.yws)をCD-ROMの「DemoSong」フォルダーからハードディスクにコピーします。

2 SQ01の[ファイル]メニューから[開く]を選択し、[開く]ダイアログを開きます。ハードディスクにコピーしたデモソングを選択して、[開く]をクリックすると、新しいトラックビューウィンドウ/オーディオミキサーウィンドウ(シーケンスソフトウェアのオンラインヘルプ参照)が開き、選択したデモソングがいくつかのブロックとして表示されます。

3 01XのINTERNALモードで[9-16 (mLAN)]レイヤーを選択します。

4 フェーダー 1/2(mL1/mL2)を上げます。

5 [PAN]ボタンを押して、PANを設定する画面に入り、チャンネルノブ1/2を使ってパンを左右に振ります。

6 MONITOR A/BでB(ランプ消灯)が選ばれているのを確認して、マスターフェーダーを上げます。

7 リモートコントロール(24ページ)の設定をして、01XをREMOTEモードにします。

8 01Xのプレイボタンを押すか、トランスポートバー (SQ01のオンラインマニュアル参照)のプレイボタンをクリックすると、デモソングの再生が始まります。

これ以降の操作について詳しくは、SQ01のオンラインヘルプをご参照ください。

Cubase SX/SL

MIDI(リモートコントロール)/オーディオ環境設定

取扱説明書の66ページをご参照ください。

NOTE

- Nuendo (2.0以降)使用時のMIDI(リモートコントロール)環境設定はCubaseと同様です。オーディオ環境設定は、[Options]→[VST connections]でAudio In/Outを指定します。

デモソングの再生

1 Plug-in EffectのVocal Rack, Final Master, Pitch Fixをインストールします(15ページ)。

NOTE

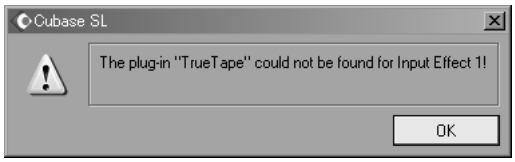
- CubaseSX/SL用のデモソングをこれらのPlug-in Effectのインストールを行なわずに開くとCubaseSX/SLが強制終了する場合があります。

2 デモソングのフォルダーをCD-ROMからハードディスクのC:¥¥Program Files¥YAMAHAにコピーします。
お使いのコンピューターでProgram Filesフォルダーが Cドライブになかったり、YAMAHA製ソフトウェアが別のフォルダーにインストールしてあり、デモ曲をC:¥¥Program Files¥YAMAHA以外にコピーする必要がある場合は、デモソングファイルとオーディオファイルのリンクが切れるので、後述の方法でリンクを再確立させてください。

3 [File]メニューから[Open]を選択し、[Open]ダイアログを開きます。ハードディスクにコピーしたデモソングフォルダーから“AllforYouforCubaseSXSL”を選択して、[Open]をクリックします。

NOTE

- ファイルが見つからない旨のメッセージが表示されたときは、デモソングフォルダーのコピー先から、指定されたファイルを選択してください。
- Cubase SLで開くと以下のメッセージが表示されることがありますが、デモソング再生には影響ありません。[OK]をクリックしてください。



4 このあとの手順はSQ01のデモソングの再生の手順**3**以降と同様です(26ページ)。

NOTE

- Cubase起動後の最初の再生時は、オートメーションデータとオーディオデータがずれることがあります。再生後、いったん停止してから、再生しなおしてください。

Logic

リモートコントロール設定

01Xを先に起動した場合

1 01XのUTILITY→REMOTE(ノブ1)→REMOTESELECTで、「LOGIC」を選択し、[REMOTE]ボタンを押してリモートコントロールモードに入ります。

2 Logicを起動します。
LogicがO1XをLogic Controlとして認識し、関連する設定が自動的に行なわれます。

Logicを先に起動した場合

1 Logicを起動したあと、O1Xの電源を入れます。O1X側でリモートコントロールの対象としてすでに「Logic」に設定されていた場合は、O1Xが立ち上がった時点で「Logic」に認識されるので、手順**2**は不要です。

2 O1XのUTILITY→REMOTE(ノブ1)→REMOTE SELECTで、「LOGIC」を選択し、リモートコントロールモードに入ります。LogicがO1XをLogic Controlとして認識し、関連する設定が自動的に行なわれます。

MIDIインタフェースをあとからコンピューターに接続した場合などで、LogicがO1Xを自動認識できないときは、下記手順を行なってください。

1. Logicのメニューから[Option(s)]→[Preferences]→[Control Surface]→[Install]を選びます。
2. 呼び出されたINSTALLウィンドウ上で、Logic Control (Yamaha O1X)をスキャンします。スキャンに成功するとO1XがLogic Controlとして認識され、関連する設定が自動的に行なわれます。

この操作を実行してもLogicがO1Xを自動認識できない場合は、下記手順を行なってください。

1. Logicのメニューから[Option(s)]→[Preferences]→[Control Surface]→[Install]を選びます。
2. 呼び出されたINSTALLウィンドウ上で、Logic Control (Yamaha O1X)を「ADD」します。
3. 呼び出されたCONTROL SURFACE SETUPウィンドウ上で、入力ポート(DAW/mLAN MIDI In: ポート1)と出力ポート(DAW/mLAN MIDI Out: ポート1)を指定します。

オーディオ環境設定

1 Logicのメニューから[Option(s)]→[Preferences]→[Audio Hardware & Drivers]で環境設定ウィンドウを開きます。

2 (Windowsのみ) オーディオドライバー 2タブをクリックし、ASIOにチェックを入れます。

3 ASIOのデバイスとしてASIO mLANを選択して、Logicを再起動します。

デモソングの再生(Macintoshのみ)

1 Plug-in EffectのVocal Rack, Final Master, Pitch Fixをインストールします(23ページ)。

2 「DemoSong」フォルダーをCD-ROMからハードディスクにコピーします。

3 「DemoSong」フォルダーを開き、デモソングファイル(AllforYouforLogic)をダブルクリックして開きます。

4 このあとの手順はSQ01のデモソングの再生の手順**3**以降と同様です(26ページ)。

Digital Performer

リモートコントロール設定

1 Digital Performerのメニューから[Basics]→[Control Surface Setup]でControl Surfaceウィンドウを開きます。

2 Driverの欄で「Mackie Control」を選択します。「Mackie Control」が選択肢に現れない場合は下記を参照してください。

3 「Unit」と「MIDI」を選択する欄が開くので、「Unit」で「Mackie Control」を選択し、「MIDI」でDAW/Port1/mLAN MIDI In(ポート1)およびDAW/Port1/mLAN MIDI Out(ポート1)を選択します。

4 01XのUTILITY→REMOTE(ノブ1)→REMOTE SELECTで、「DP」を選択し、リモートコントロールモードに入ります。

手順2で、Mackie Controlが選択できない場合

1 www.motu.comからMackie Control Plug-inをダウンロードし、適切な場所に解凍します。

2 解凍の結果できたMackie Controlファイルを、Digital Performerをインストールしたフォルダーの Plug-insフォルダーに移動します。

3 Digital Performerを再起動します。

NOTE

- OMS SetupのMIDI Thru機能とDigital PerformerのMIDI Patch Thru機能をバックグラウンドでも働くように設定してください。

オーディオ環境設定

1 Digital Performerのメニューから[Basics]→[Configure Audio System]→[Configure Hardware Driver]でConfigure Hardware Driverウィンドウを開きます。

2 メニューから「ASIO」を選択します。

3 ASIO Driver: にASIO mLANを選びます。

NOTE

- ASIO mLAN Control Panelを開くには、「Configure Driver」をクリックします。

SONAR(英語版のみ)

リモートコントロール設定

1 SONARのメニューから[Options]→[MIDI Devices]でMIDI Devicesウィンドウを開きます。

2 「Inputs」に「mLAN MIDI In (ポート1)」を加え、「Outputs」に「mLAN MIDI Out (ポート1)」を加えます。

3 SONARのメニューから[Options]→[Control Surfaces]でControl Surfacesウィンドウを開きます。

4 [New]アイコンをクリックして、[Control Surfaces]で「Mackie Control」を選択し、Inputsを「mLAN MIDI In (ポート1)」に、Outputsを「mLAN MIDI Out (ポート1)」に設定します。

5 01XのUTILITY→REMOTE(ノブ1)→REMOTE SELECTで[SONAR]を選択し、[REMOTE]ボタンを押してリモートコントロールモードに入ります。

オーディオ環境設定(WDM使用時)

NOTE

- アプリケーションを終了し、Driver Setup(10ページ)のModeをWDMに設定してから以下の操作を行なってください。

1 Options→Audioで「Audio Options」ウィンドウを開きます。

2 Advancedタブをクリックして Driver ModeがWDM/KSであることを確認します。

NOTE

- WDM/KSが選ばれてない場合はWDM/KSを選択してSONARを再起動します。

3 Options→Audioで「Audio Options」ウィンドウを開き「General」「Input Monitoring」「Drivers」で使用するmLANオーディオポートを選択します。

デモソングの再生

1 デモソングのフォルダーをCD-ROMからハードディスクのC:¥¥Program Files¥YAMAHAにコピーします。
お使いのコンピューターでProgram Filesフォルダーが Cドライブになかったり、YAMAHA製ソフトウェアが別のフォルダーにインストールしてあり、デモ曲をC:¥¥Program Files¥YAMAHA以外にコピーする必要がある場合は、デモソングファイルとオーディオファイルのリンクが切れるので、後述の方法でリンクを再確立させてください。

2 [File]メニューから[Open]を選択し、[Open]ダイアログを開きます。
ハードディスクにコピーしたデモソングフォルダーから“AllforYouforSonar2”を選択して、[Open]をクリックします。

NOTE

- ファイルが見つからない旨のメッセージが表示されたときは、デモソングフォルダーのコピー先から、指定されたファイルを選択してください。

3 このあとの手順はSQ01のデモソングのの再生の手順**3**以降と同様です(26ページ)。

メッセージ一覧

メッセージ	ページ
mLANストリームドライバーが見つかりませんでした。 mLANドライバーをインストールし直してください。	6、18
mLANネットワーク上に01Xが見つかりませんでした。 01Xの電源がオンになっているか、01XとコンピューターがmLANケーブルで正しく接続されているか確認してから、Auto Connector for 01X を 再起動してください。	9、20
設定を変更できませんでした。 以下の原因が考えられます。 (1)mLANドライバーを使用中のアプリケーションがある場合にはそれらを終了してから、再度設定を行なってください。 (2)リソースが不足している可能性があります。	12
01XのワードクロックをSlaveにできませんでした。 01XのマスタークロックをmLAN Auto W.CLK= Enableに設定してください。 <手順> (1) 01X の[UTILITY]ボタンを押す。 (2) 01X のLCD表示から「W.CLK(ノブ3)」を選択する(押す)。 (3) 01X のLCD表示から「ENABLE(ノブ1)」を選択する(押す)。	9、20
アプリケーション“mLAN Start”が起動していないため、mLAN設定が初期化できませんでした。 “mLAN Manager”のメニューから“ON”を選択してください。	10
01XのmLANオーディオ出力端子をコンピューターのmLANオーディオ入力端子に接続できませんでした。	9、10
01XのmLAN MIDI出力端子をコンピューターのmLAN MIDI入力端子に接続できませんでした。	
コンピューターのmLAN MIDI出力端子を01XのmLAN MIDI入力端子に接続できませんでした。	9、10
コンピューターのmLANワードクロック出力端子を01XのmLANワードクロック入力端子に接続できませんでした。	9、10
01XのmLANワードクロック出力端子をコンピューターのmLANワードクロック入力端子に接続できませんでした。	9、10
新しい1394アダプタカードが見つかりました。 新しいカードを使用する場合は、コンピューターを再起動してください。	
リソースメモリが足りませんでした。mLAN Stopを実行後、mLANStartを実行してください。もし、それでもだめな場合はコンピューターを再起動してください。	10
1394アダプタカードが見つかりませんでした。カードを確認し、もう1度 mLANを起動してください。	10
起動できないアプリケーションがありました。当該アプリケーションからのメッセージに従ってください。メッセージが無い場合は、mLANStartを再度起動するか、PCを再起動してください。	10
応答のないアプリケーションがありました。mLANStartを再度起動するか、PCを再起動してください。	10
mLAN Busドライバーのロードに失敗しました。 ハードウェア・ウイザードが未処理の場合は、処理の完了後、mLANStartを起動してください。それ以外の場合は、PCを再起動してください。	10
停止できないアプリケーションがありました。mLANおよびDAWのアプリケーションをすべて終了させてからmLANStopを実行してください。	10

トラブルシューティング

■ ドライバーがインストールできない

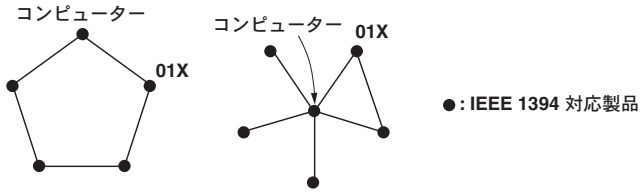
・ mLANケーブルは正しく接続されていますか？ mLANケーブルの接続を確認してください。
一度mLANケーブルを抜いて、再度接続してくみてください。

■ mLAN通信できない

・ ドライバーはインストールしましたか？ ..... 6、18ページ
・ mLANケーブルは正しく接続されていますか？ mLANケーブルの接続を確認してください。
一度mLANケーブルを抜いて、再度挿入してください。
・ (Windows) mLANがオンになっていますか？ タスクバー → mLAN Manager (mLANアイコン)を右クリックして、
ON(mLAN開始)を選択してください。 10ページ
・ (Windows) 新しいIEEE 1394カードを追加したときは、タスクバー → mLAN Manager (mLANアイコン)を
右クリックして、ON (mLAN開始)を選択してください。 10ページ
・ 01XのACTIVEランプは正常(青色点灯)ですか？ 消えている場合は以下の確認をしてください。
・ mLAN Driver Setup (タスクバー → mLAN Manager (mLANアイコン)を右クリック → Driver Setupで
Statusは青くなっていますか？ 青以外の場合は01Xを再起動し、mLAN Auto Connectorで再接続してください。 ..... 9、20ページ
・ 01XのmLAN AUTO W.CLK(オートワードクロック)の設定は有効になっていますか？
・ mLAN Auto Connectorの接続は確立していますか？ 再接続してみてください。 ..... 9、20ページ
・ 機器を交換していませんか？ たとえ同じ機種でもハード自体が異なると、mLAN Auto Connectorによる再接続が必要です。 ..... 9、20ページ

・ ループ接続になっていませんか。ケーブルの配線をご確認ください。

ループ接続の例



・ コンピューター側のIEEE 1394インターフェースに制限がある場合があります。同時に使うことができるポート数をご確認ください。
・ mLANネットワーク上のパソコン以外の機器をすべてオフにして、パソコンと1対1で接続し、
トラブルの原因となっている機器を取り除いてください。
・ (Windows) タスクバーの[ハードウェアの安全な取り外し]でmLAN Busを取り外したあとに、
再度 mLANを使用する場合はコンピューターを再起動してください。
・ (Macintosh) iBook、PowerBookで使用する場合には、01XとMacintoshをmLANケーブルで接続し、
01Xの電源を入れてから、Macintoshを起動してください。

■ DAWなどのアプリケーションからmLANのドライバー (MIDI/オーディオ)が見えない。

・ mLANが停止していませんか？ タスクバーのmLAN Manager (mLANアイコン)を右クリックしてONを選択してください。 10ページ
・ 01Xが mLANケーブルで接続され、電源が入っていますか？ (念のため、Auto Connectorを起動して、再接続してください) ..... 9、20ページ
・ (Macintosh) iBook、PowerBookで使用する場合には、01XとMacintoshをmLANケーブルで接続し、
01Xの電源を入れてから、Macintoshを起動してください。
・ mLANの設定は適切ですか？ ..... (上記「mLAN通信できない」参照)

■ リモートコントロール/オートメーションできない

・ REMOTE SELECTで適切なDAWが選ばれていますか？ 24ページ
・ mLANの設定は適切ですか？ ..... (上記「mLAN通信できない」参照)
・ DAWの設定は適切ですか？ 24ページ
・ mLAN MIDIの送信/受信でポート1が選択されていますか？ 21ページ

■ ワードクロックを変更できない

・ mLAN使用時は、mLAN Auto Connectorで設定します。 ..... 9、20ページ
・ 01XのmLAN AUTO W.CLK(オートワードクロック)の設定は有効になっていますか？ ..... 9、20ページ

■ コンピューターの処理が重たい

・ mLAN Auto Connectorで使用するオーディオチャンネル数を減らしてみてください。 ..... 9、20ページ
・ レイテンシーの値を大きくしてみてください。 11ページ
・ (Macintosh) デュアルCPUの機種でスリープやサスペンドに移行すると、復帰したときに処理が重くなることがあります。
このようなときは、コンピューターを再起動してください。
・ (Windows)「オーディオデータを扱う場合のヒント」をご参照ください。 24ページ
・ (Windows) Hyper Threading (BIOSの設定)をDisableにすることで解決できることがあります。
・ (Windows) mLANを使用しないときは、タスクバーのmLAN Manager (mLANアイコン)を右クリックして、
OFF (mLAN終了)を選択してください。

■ アプリケーションやOS(オペレーティングシステム)を終了できない

■ mLANの設定を変更できない

■ Instarll mLAN for 01X(mLANドライバー) やmLAN Tools 2.0がアンインストール(削除)できない

・ (Windows) mLAN WDMドライバーがシステムサウンドに選ばれていませんか？ 12ページ
  ・ [スタート]→[コントロールパネル]→「サウンドとオーディオデバイス」→[音声]の
  [音声再生]と[音声録音]で“mLAN Audio Out/In 01”以外を選択します。
  ・ [スタート]→[コントロールパネル]→「サウンドとオーディオデバイス」→[オーディオ]の
  [音の再生] と [録音] で“mLAN Audio Out/In 01”以外を選択します。
・ (Windows) [スタート]→[コントロールパネル]→「サウンドとオーディオデバイス」→ [サウンド]の
[サウンド設定]で“サウンドなし”を選択して、再実行してください。
・ (Windows) mLANを終了(タスクバーの mLANアイコンを右クリックしてOFFを選択)できないときは、
タスクマネージャーで以下のプロセス ([Ctrl]+[Alt]+[Del]→ [プロセス]を終了させてください。
再度mLANの設定を変更をするには、[スタート] →[(すべての)プログラム] → [スタートアップ]からmLAN Managerを起動してください。
mLANVDevice.exe
mLANTFamily.exe
mLANSoftPH.exe
mLANManager.exe
・ (アンインストール時にファイルが見つからないなどと表示される場合)いったんインストールを実行してから、
再度アンインストールしてください。

■ (Windows) mLAN Manager (タスクバーのmLANアイコン)が消えてしまった

・ [スタート] → [(すべての)プログラム] → [スタートアップ] または [mLAN Tools] からmLAN Managerを選択します。 10ページ

■ 演奏がもたつく

・ お使いのコンピューターは推奨環境を満たしていますか？ ..... 5、18ページ
・ (Macintosh) 仮想メモリを「切」にしてください。
・ (Macintosh) Apple Talkを「不使用」にしてください。

NOTE

・「音がでない」「ノイズが発生する」などの問題については、01X取扱説明書のトラブルシューティングもご確認ください。

付属アプリケーションソフトウェアのユーザーサポートサービス

ユーザー登録のお願い

弊社では、ユーザーの方々をサポートし、関連情報をご提供するために、アプリケーションソフトウェア(含む付属アプリケーションソフトウェア)をご購入いただいたお客様を登録させていただいております。

つきましては、お手数とは存じますが、製品に同梱しております「ユーザー登録カード」に(シリアルNo.ラベルを貼り付け)必要事項をご記入の上、至急ご返送くださいますようお願い申し上げます。弊社にてお客様の登録を行ない、折り返しユーザー ID番号をご案内いたします(ユーザー ID番号は、アプリケーションソフトをインストールする際に入力する番号とは異なります)。

このユーザー ID番号は弊社が以下のサポートをさせていただく際に必要な番号ですので、大切に保管してください。

ユーザーサポートサービスのご案内

サービスの種類によっては、CD-ROMディスク(以下ディスクと呼びます)の返送が必要になりますが、その際お送りいただいたディスクが弊社製品と確認できない場合、修復のサービスはお受けになれません。あらかじめご了承ください。

[ユーザー登録手続き]を完了された方に限り、以下のサポートを行なわせていただきます。

無償サポートサービスについて

1. ご購入時に正常に動作しないディスクの修復

製品には万全を期しておりますが、万一ディスクに記録されたプログラムなどの内容が、ご購入時にすでに破壊や欠損を起こしていたために正常に動作しない場合、ディスクの内容を修復(交換またはフロッピーによる修復)いたします。

下記の「ディスク修復のお申し込み方法」にしたがってお申し込みください。

- 「ご購入時」とは製品をお求めいただいてから14日以内とさせていただきます。
- お送りになる前に、お送りいただく旨を、必ず下記の「CBXインフォメーションセンター」まで電話でご連絡ください。

ディスク修復のお申し込み方法

1. 修復の必要なディスクのほかに、「ユーザー登録用カード」に必要事項(ご住所、お名前、電話番号)をご記入の上、[動作の状態]などを明記した文書をご同封ください。宛先は下記の「CBXインフォメーションセンター」です。
2. 返送の途中でディスクが破損しないように十分注意して包装してください(返送の途中でディスクが破損または紛失した場合、弊社では責任を負いかねます)。
3. ご返送には、郵便書留か宅配便をご利用ください(宅配便の場合は、着払[弊社負担]をご利用いただけます)。

2. SQ01に関する質問の受付

「ユーザー登録手続き」を完了された方に限り、使用方法や関連情報などについて、電話やお手紙による質問をお受けいたします。下記の「CBXインフォメーションセンター」までお問い合わせください。

お問い合わせの際には、「製品名」、「ユーザー ID番号」、「ご住所」、「お名前」、「電話番号」を必ずご明示ください。また、「ご使用のパソコンの種類」、「操作の手順やそれによる結果と状態」、「入力されたデータの内容」なども詳しくお知らせください。お客様からの情報が不足している場合は、ご返事できない場合があります。

CBXインフォメーションセンター

〒430-8650　静岡県浜松市中沢町10-1

ヤマハ(株) CBXインフォメーションセンター

TEL: 053-460-1667

- 受 付 日　: 月～土曜日 (日曜･祝祭日およびセンターの休業日を除く)
- 受付時間　: 10:30～19:00

＊ ユーザーサポートサービスは日本国内においてのみ有効です。

有償サポートサービスについて

1. 有償サポートサービスの内容

お客様が使用中にこのディスクを破損された場合、有償でディスクの内容を購入時と同等に修復(交換またはフロッピーによる修復)いたします。必要事項をご記入の上、手数料(￥5,000:消費税込み)と破損したディスクを添え「有償サポートサービスのお申し込み方法」にしたがってお申し込みください。

- 有償サポートサービスの受付期間は、お客様が本製品をご購入後、一年以内とさせていただきます。
- お申し込みになる前に、必ずCBXインフォメーションセンターまで電話でご連絡ください。
- ユーザー登録が完了されているお客様へのサービスです。

2. 有償サポートサービスのお申し込み方法

CBXインフォメーションセンター宛に直接お申し込みください。

このサービスは、お買い上げの販売店では、受け付けておりません。

1. 下記の有償サポートサービスの[申込書]に必要事項をもれなくご記入の上、手数料とともに、CBXインフォメーションセンターまで現金書留にてお送りください。

   *お客様からのCBXインフォメーションセンターへの送料は、お客様にてご負担ください。

2. ディスクを送付される場合は、「ご住所」、「お名前」、「電話番号」、「ユーザーID番号」を明記して、CBXインフォメーションセンターまで、郵便書留にてお送りください。なお、郵送の途中でディスクが破損しないように、十分注意して包装してください。

   *普通郵便などでお送りになられた際の事故につきましては、当社では責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

   *必ずご登録いただいた「ご住所」、「お名前」でお申し込みください。

   * お申し込みいただきましたディスク（ または修復データを収録したフロッピー)は、手数料の確認の後、登録されたご住所に発送いたします。お申し込み後、2週間過ぎても製品が届かない場合は、CBXインフォメーションセンターまでご連絡ください。

ディスクの紛失につきましては再発行はいたしかねますので、あらかじめご了承ください。

＜破損ディスクの修復申し込み＞

有償サポートサービスの「破損ディスクの修復」の申し込みをされる場合は、下の申込書をコピーしてご使用ください。

TOOLS for 01X/Plug-in Effect：破損CD-ROM修復申込書

ご住所	□□□-□□□□ フリガナ 都道府県　市区郡 （マンション等の名称も必ずご記入ください。）	
お名前	フリガナ	ユーザーID番号
電話	市外局番 (　　)　　－	

破損ディスク「TOOLS for 01X/Plug-in Effect」CD-ROM

破損ディスクの修復の手数料は￥5,000(消費税込み)です。

ユーザーID番号も必ずご記入ください。

住所/氏名の変更(同一使用者の範囲内)

ご登録いただいた「ご住所」、「お名前」などを変更された場合は、「製品名」、「ユーザーID番号」、「旧住所/旧氏名」、「新住所/新氏名」を明示の上、ご面倒でもCBXインフォメーションセンターまで郵便でご通知ください。折り返し手続き完了のご連絡をさせていただきます。

■ ソフトウェアのご使用条件

弊社では本ソフトウェアのお客様によるご使用およびお客様へのアフターサービスについて、＜ソフトウェア使用許諾契約＞を設けさせていただいており、お客様が下記条項にご同意いただいた場合にのみご使用いただけます。
ディスクの包装を解かれた場合は下記条項にご同意いただけたものとさせていただきますので、下記条項を充分お読みの上開封してください。
ご同意いただけない場合は、未開封のまま速やかに(14日以内に)ご返却ください(ただし、本ソフトウェアをソフトウェアパッケージの一部として、またはハードウェア商品の付属ソフトウェアとしてお求めいただいた場合、本ソフトのみの返却はお受けいたしません)。

ソフトウェア使用許諾契約

1. 著作権および使用許諾

弊社はユーザー登録されたお客様に対し、本ソフトウェアを構成するプログラム、データファイルおよび今後お客様に一定の条件付きで配布され得るそれらのバージョンアッププログラム、データファイル(以下「許諾プログラム」といいます)を、お客様ご自身が一時に一台のコンピュータにおいてのみ使用する権利を許諾します。これらの許諾プログラムが記録されているディスクの所有権は、お客様にありますが、許諾プログラム自体の権利およびその著作権は、弊社が有します。

2. 使用制限

許諾プログラムは版権を持つ情報を含んでいますので、その保護のため、お客様が許諾プログラムを逆コンパイル、逆アセンブル、リバース・エンジニアリング、またはその他の方法により、人間が感得できる形にすることは許されません。許諾プログラムの全体または一部を複製、修正、改変、賃貸、リース、転売、頒布または許諾プログラムの内容に基づいて二次的著作物をつくることは許されません。許諾プログラムをネットワークを通して別のコンピュータに伝送することも許されません。

3. 終了

本使用条件はお客様が許諾プログラムをお受け取りになった日に発効します。本使用条件による使用許諾は、お客様が著作権法または本使用条件の条項に1つでも違反されたときは、弊社からの終了通知がなくても自動的に終了するものとします。その場合には、ただちに許諾プログラムとその複製をすべて廃棄しなければなりません。

4. 製品の保証

弊社は、お客様が許諾プログラムをお受け取りになった日から14日間に限り、媒体に物理的な欠陥があった場合には、その原因が事故、乱用、誤用など弊社の責に帰さない事由による場合を除き、無償で同種の良品と交換させていただきます。

5. 責任の制限

弊社は、許諾プログラムの使用、またはそれを使用できなかったことにより生じた直接的、派生的、付随的または間接的損害(データの破損、営業上の利益の損失、業務の中断、営業情報の損失などによる損害を含む)については、通常もしくは特別の損害に拘わらず、たとえそのような損害の発生や第三者からの賠償請求の可能性があることについて予め知らされた場合でも、一切責任を負いません。

6. 第三者のソフトウェア

弊社は、本ソフトウェアとともに、第三者のプログラム、データファイルおよびそれに関するドキュメンテーション(以下「第三者ソフトウェア」といいます)を提供する場合があります。別の規定に従い取り扱われるべき旨の記載が、本ソフトウェア付随のマニュアルに記載されている場合には、本使用条件にかかわらず、その別の規定に従い取り扱われるものとし、弊社によるアフターサービスおよび保証などについては、以下の規定が適用されるものとします。
弊社は、第三者ソフトウェアに関しての操作方法、瑕疵その他に関してアフターサービスを提供するものではありません。
弊社は、第三者ソフトウェアの商品性、および特定目的に対する適合性の保証その他一切の保証を、明示であると黙示であるとを問わず、一切いたしません。第三者ソフトウェアの使用もしくは機能から生じるすべての危険は、お客様が負担しなければなりません。
弊社は、第三者ソフトウェアの使用、またはそれを使用できなかったことにより生じた直接的、派生的、付随的または間接的損害(データの破損、営業上の利益の損失、業務の中断、営業情報の損失などによる損害を含む)については、通常もしくは特別の損害に拘わらず、たとえそのような損害の発生があることについて予め知らされた場合でも、一切責任を負いません。

7. 一般事項

本契約は、日本法の適用を受け、日本法に基づいて解釈されるものとします。

■ 商品に関するお問い合わせ窓口

CBXインフォメーションセンター
〒430-8650　静岡県浜松市中沢町10-1
TEL : (053)460-1667

■ 営業窓口

EM営業統括部

企画推進室
〒108-8568　東京都港区高輪2-17-11
TEL : (03) 5488-5430

EM営業統括部 各地区お問い合わせ先

EM北海道
〒064-8543　札幌市中央区南10条西1丁目1-50 (ヤマハセンター)
TEL : (011) 512-6113

EM仙台
〒980-0804　仙台市青葉区大町2-2-10
TEL : (022) 222-6147

EM東京
〒108-8568　東京都港区高輪2-17-11
TEL : (03) 5488-5471

EM名古屋
〒460-8588　名古屋市中区錦1-18-28
TEL : (052) 201-5199

EM大阪
〒542-0081　大阪市中央区南船場3-12-9 (心斎橋プラザビル東館)
TEL : (06) 6252-5231

EM九州
〒812-8508　福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL : (092) 472-2130

PA・DMI 事業部

PE営業部MP営業課
〒430-8650　静岡県浜松市中沢町10-1

● ヤマハデジタル楽器・DTM製品ホームページ
http://www.yamaha.co.jp/product/syndtm/

● ヤマハマニュアルライブラリー
http://www2.yamaha.co.jp/ manual/japan/

●「音楽する人、音楽したい人のための頼れるポータルサイト」ミュージックイークラブ・ドットコム
http://www.music-eclub.com

● よくあるご質問(Q&A/FAQ)
http://www.yamaha.co.jp/supportandservice/index.html

※ 名称、住所、電話番号、URLなどは変更されることがあります。

ECO-PULP エコパルプ
この取扱説明書は
エコパルプ(ECF: 無塩素系漂白パルプ)を
使用しています。

PRINTED WITH SOY INK
この取扱説明書は
大豆油インクで印刷しています。

ヤマハ株式会社
U.R.G., Pro Audio & Digital Musical Instrument Division, Yamaha Corporation

© 2003 Yamaha Corporation

WB29360　311POCP5.2-01A0　Printed in Japan